

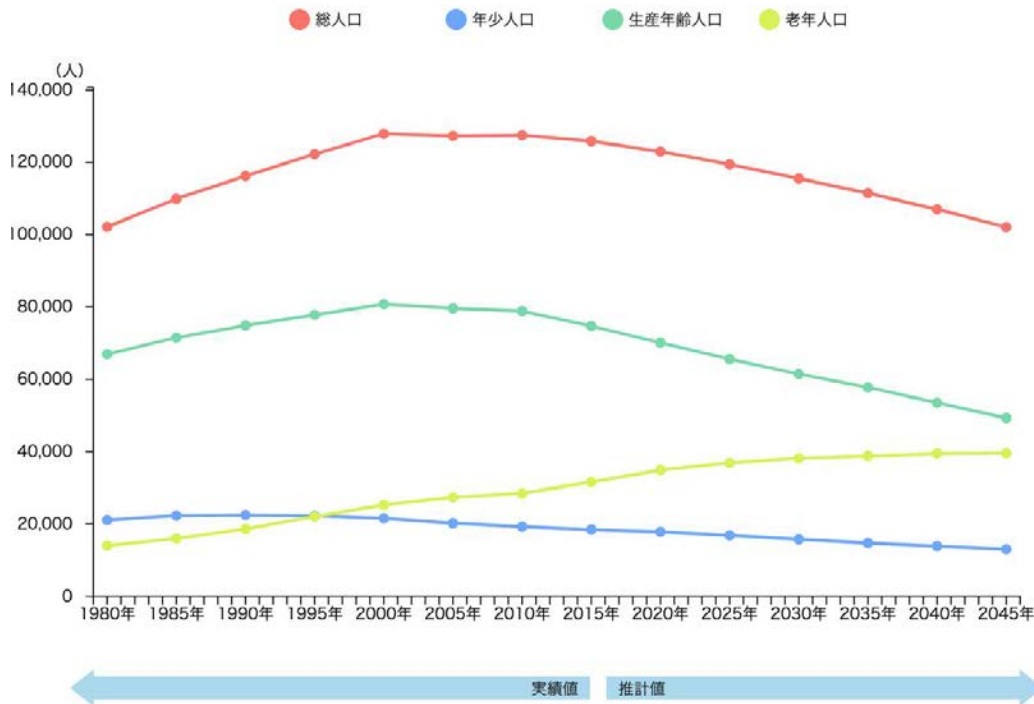
始良・伊佐地域

4 市町レポート

人口動態

人口推移

鹿児島県霧島市



合計特殊出生率

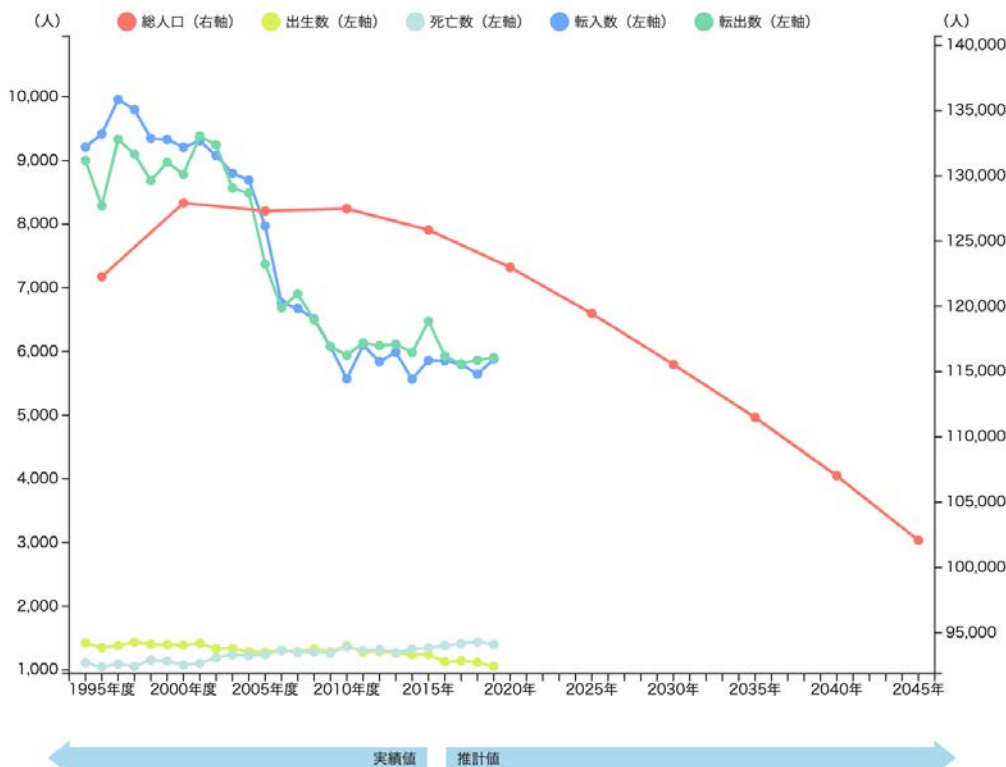
(2008年～2012年)

1.73

(人口動態保健所・市町村別統計より)

出生数・死亡数 / 転入数・転出数

鹿児島県霧島市



要点

- ✓2000年をピークに人口減少に転じている
- ✓合計特殊出生率は県全体と同程度である
- ✓県内でも生産年齢人口率が高く(57.9%)、高齢化率が低い(27.6%)
(2019年県統計より)
- ✓2045年まで年少人口・生産年齢人口ともに減少し、老年人口は増え続ける見込み
- ✓2010年前後から自然減・社会減に転じている

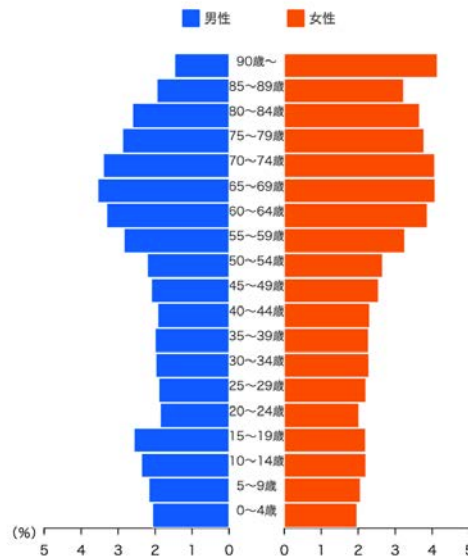
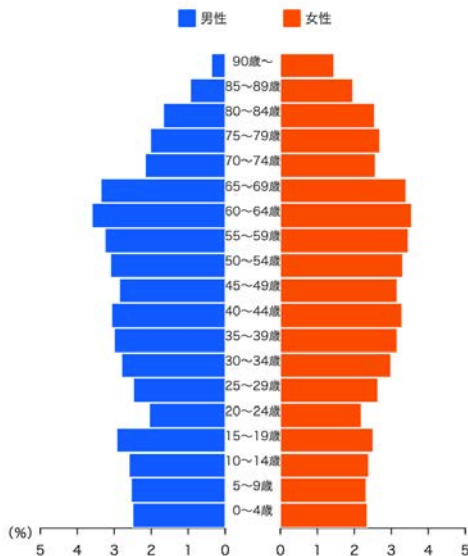
人口動態

人口ピラミッド

鹿児島県霧島市

2015年

2045年



老年人口 (65歳以上) : 31,662人 (25.16%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 74,757人 (59.4%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 18,511人 (14.71%)

老年人口 (65歳以上) : 39,613人 (38.81%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 49,341人 (48.34%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 13,113人 (12.85%)

要点

【人口ピラミッド】

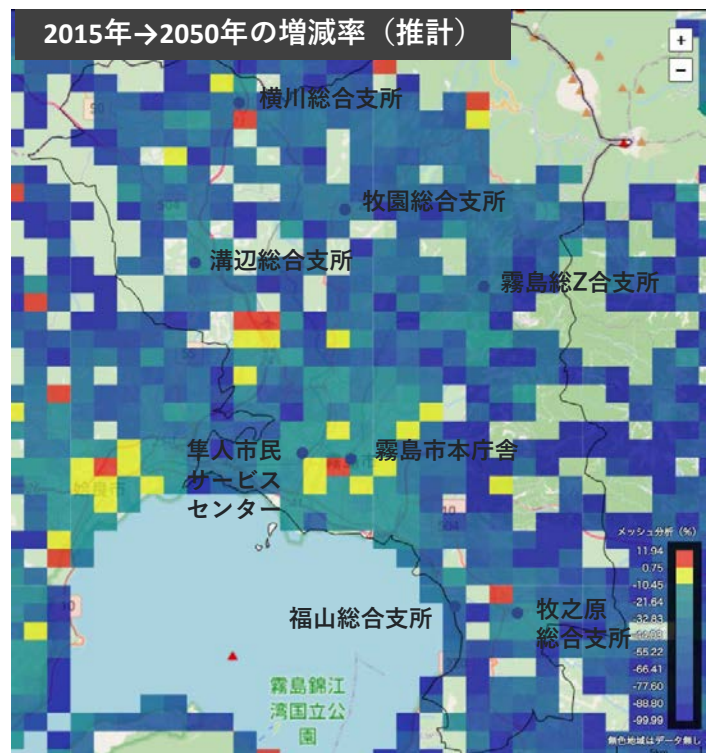
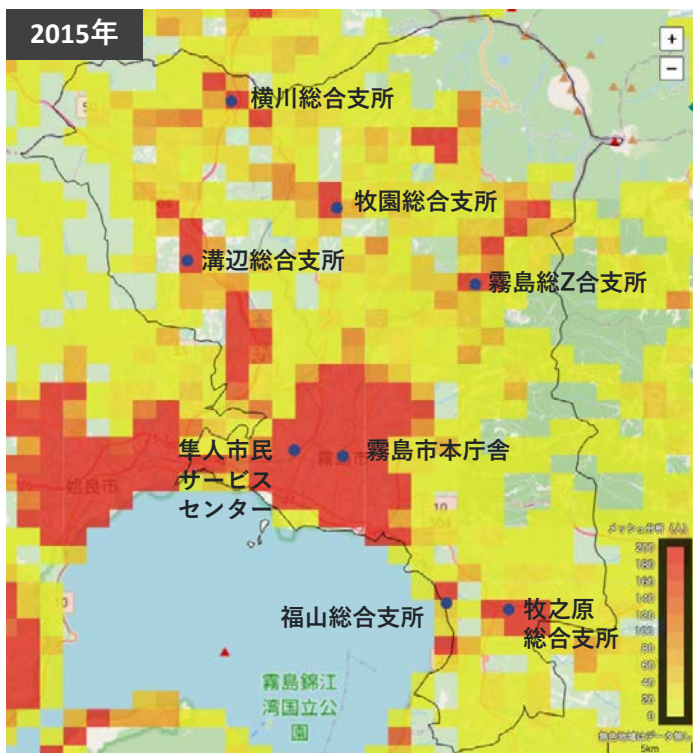
✓2015年からの30年間で特に生産年齢人口の減少が顕著 (2015年人口に対して2045年人口は、老年:125%,生産年齢:66%,年少:71%)

【人口マップ】

✓本庁舎を中心としたエリアに人口が集中する一方それ以外では狭い範囲で集中する箇所が点在

✓市域の広い範囲で人口減少、人口集中地域の増減率が比較的緩やか

人口マップ



人口移動

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

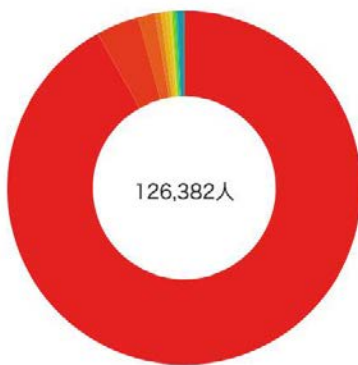
2015年 鹿児島県霧島市

昼間人口：126,382人

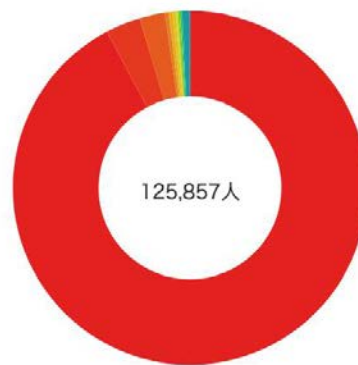
夜間人口：125,857人

(昼夜間人口比率：100.42%)

昼間人口
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



夜間人口
(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



要点

【昼間人口・夜間人口】

✓昼間・夜間人口ともに
市内在住者が92%程度
と比較的移動が少ない

✓移動先は始良市、鹿児島
島市が多い

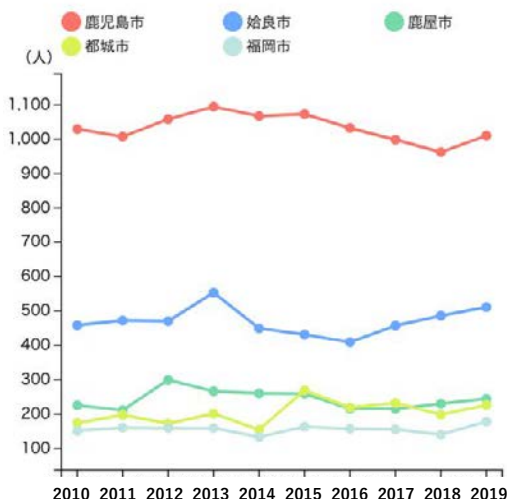
【転入・転出】

✓2019年の転入数5674人
転出数5732人
(転入者の約60%、転出者の約
63%が20代以下)

✓大隅地方及び周辺市町
からの転入超過、始良
市・鹿児島市及び熊本
市など他県への転出超
過が多い傾向

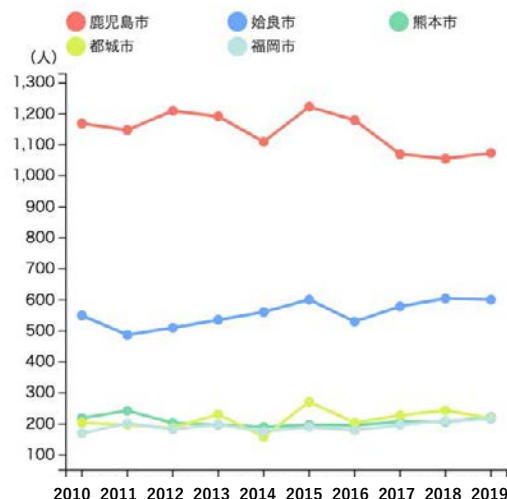
転入数上位地域

総数



転出数上位地域

総数



転出超過 (2019年)

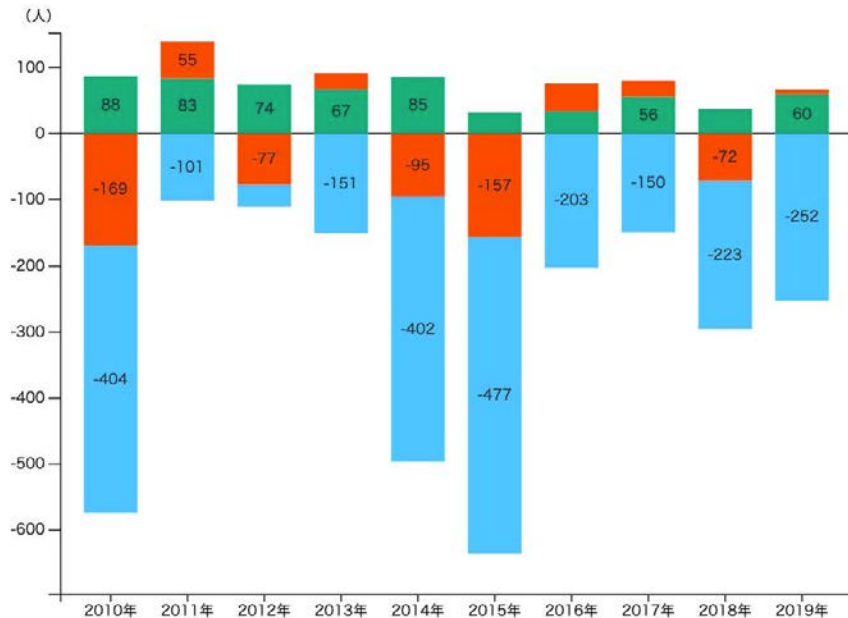
- 1位 鹿児島県始良市 90人 (10.91%)
- 2位 熊本県熊本市 86人 (10.42%)
- 3位 鹿児島県鹿児島市 64人 (7.76%)
- 4位 鹿児島県奄美市 63人 (7.64%)
- 5位 長崎県大村市 50人 (6.06%)
- 6位 神奈川県横浜市 45人 (5.45%)
- 7位 福岡県福岡市 37人 (4.48%)
- 8位 福岡県北九州市 32人 (3.88%)
- 9位 大阪府大阪市 27人 (3.27%)
- 10位 福岡県春日市 22人 (2.67%)

人口移動

年齢階級別純移動数

鹿児島県霧島市

0～14歳
15～64歳
65歳～



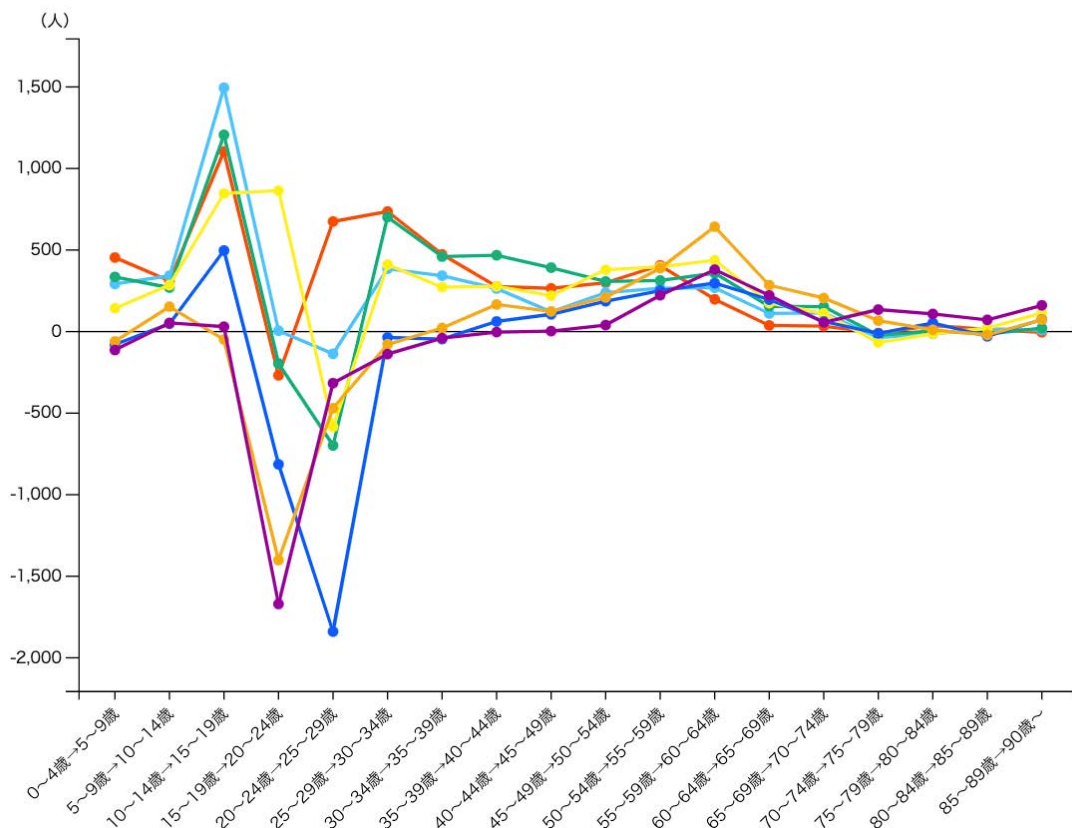
要点

- ✓15～34歳の若年層の転出超過の傾向が大きくなっている
- ✓定年後の転入超過が特徴的である
- ✓2010年以降、毎年65歳以上が転入超過となっている

年齢階級別純移動数の時系列分析

鹿児島県霧島市

1980年→1985年 1985年→1990年 1990年→1995年 1995年→2000年 2000年→2005年 2005年→2010年 2010年→2015年



地域経済循環

- ・「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。
- ・雇用者所得は、主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等、その他所得は、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の所得により構成
- ・その他支出は、政府支出+（地域内産業の移輸出-移輸入）により構成
- ・表中の順位は全国1,719市区町村におけるランキング

地域経済循環率

95.7%

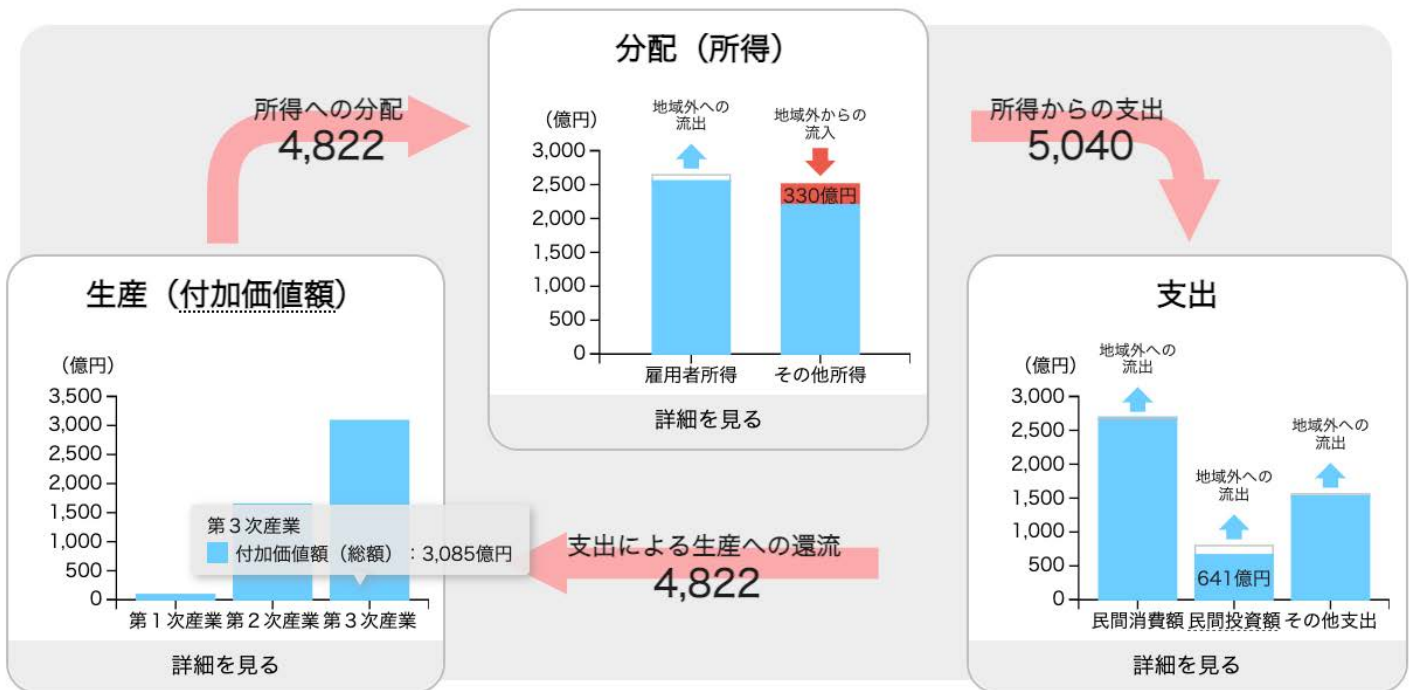
地域経済循環図

2015年

指定地域：鹿児島県霧島市

分配

	雇用者所得	その他所得
所得（一人当たり）	201万円	199万円
所得（一人当たり）順位	804位	1,046位



生産	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額（一人当たり）	301万円	1,049万円	808万円
付加価値額（一人当たり）順位	608位	452位	498位

支出	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出率	-0.4%	-19.8%	-3.2%
支出流出率順位	904位	873位	295位

- ✓雇用者所得は若干域外へ流出しており、所得水準は全国的に中位程度
その他所得は1割強を域外からの流入が占め、全国的にはやや低い水準

要点

- ✓支出は地域住民の消費、地域内産業の支出ともに域外に流出している
- ✓第1次～第3次の産業分野で付加価値額が比較的高い水準となっている

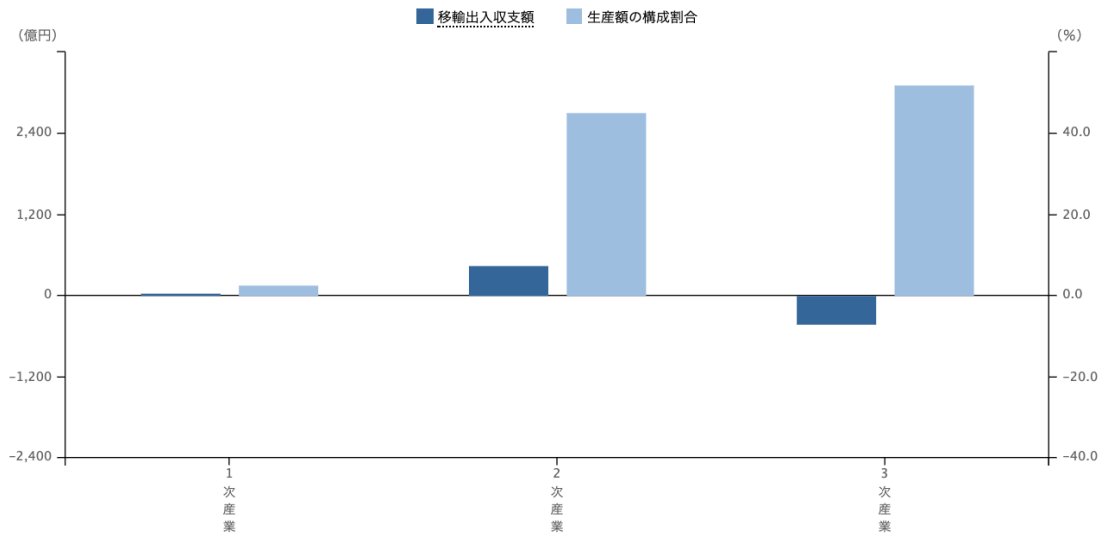
移輸出入額

移輸出入収支額（産業別）

2015年

指定地域：鹿児島県霧島市

指定産業：すべての大分類＞すべての中分類



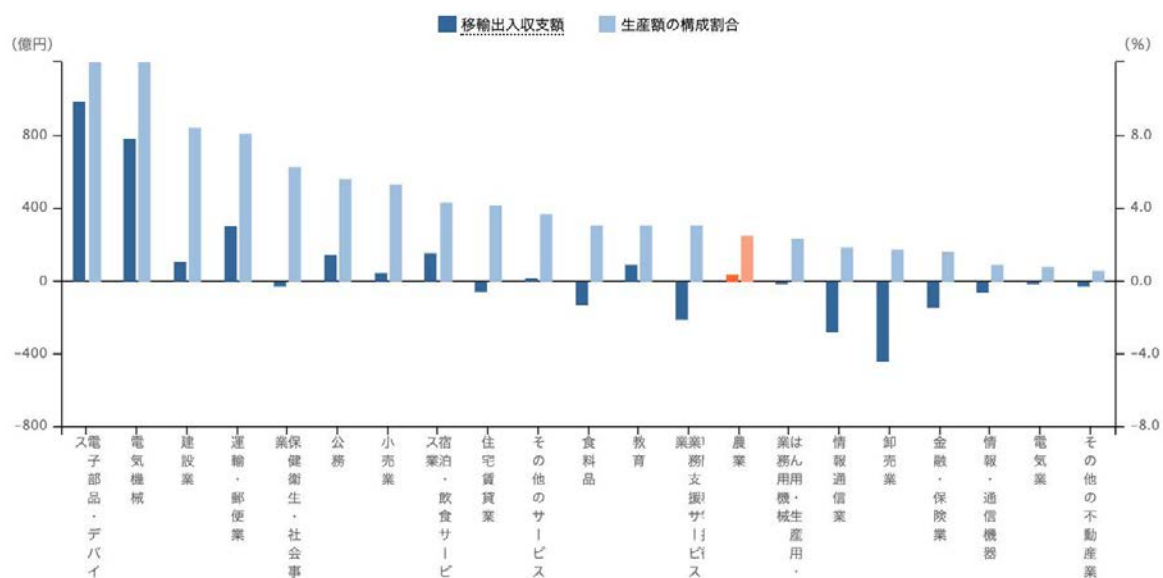
・「移輸出入収支額」とは、域外からの（移出・輸出に伴う）収入額から域外への（移入・輸入に伴う）支出額を差し引いたものである。プラスの産業は域外からお金を獲得している産業、マイナスの産業は域外にお金が出ていることを示す。

移輸出入収支額（産業別）

2015年

指定地域：鹿児島県霧島市

指定産業：第1次産業＞農業



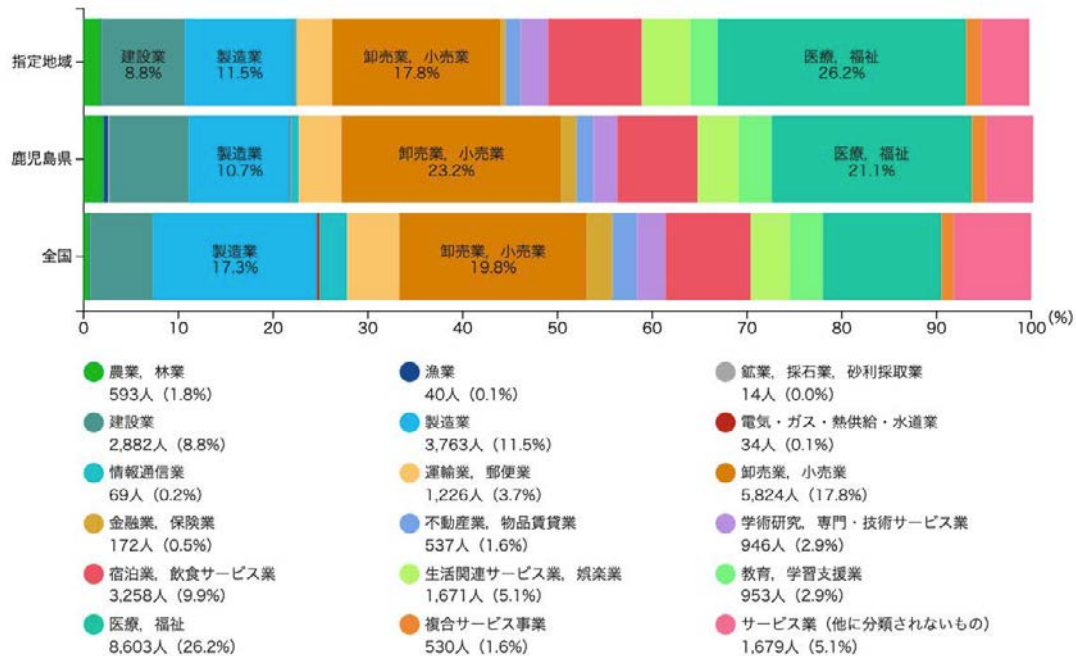
- ✓産業別生産額は第1次が約3%、第2次が約45%、第3次が52%
第1次・第2次産業は域外の資本を獲得できている一方、第3次は流出が見られる
- ✓中分類では電子部品・デバイス、電気機械の生産額割合・域外からの流入が大きい

要点

産業構造

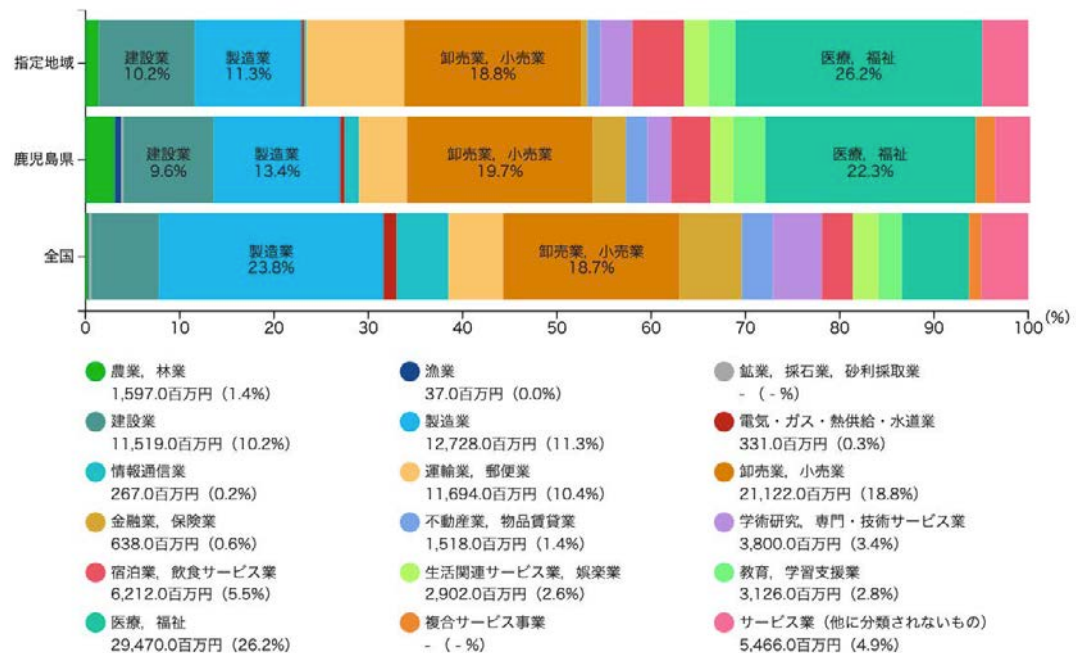
従業者数(企業単位) 2016年

指定地域：鹿児島県霧島市



付加価値額(企業単位) 2016年

指定地域：鹿児島県霧島市



✓市内従業者は医療・福祉関係(約26%)、卸売業・小売業(約18%)の割合が高い

要点

✓付加価値額も医療・福祉関係(約26%)、卸売業・小売業(約19%)の割合が高い

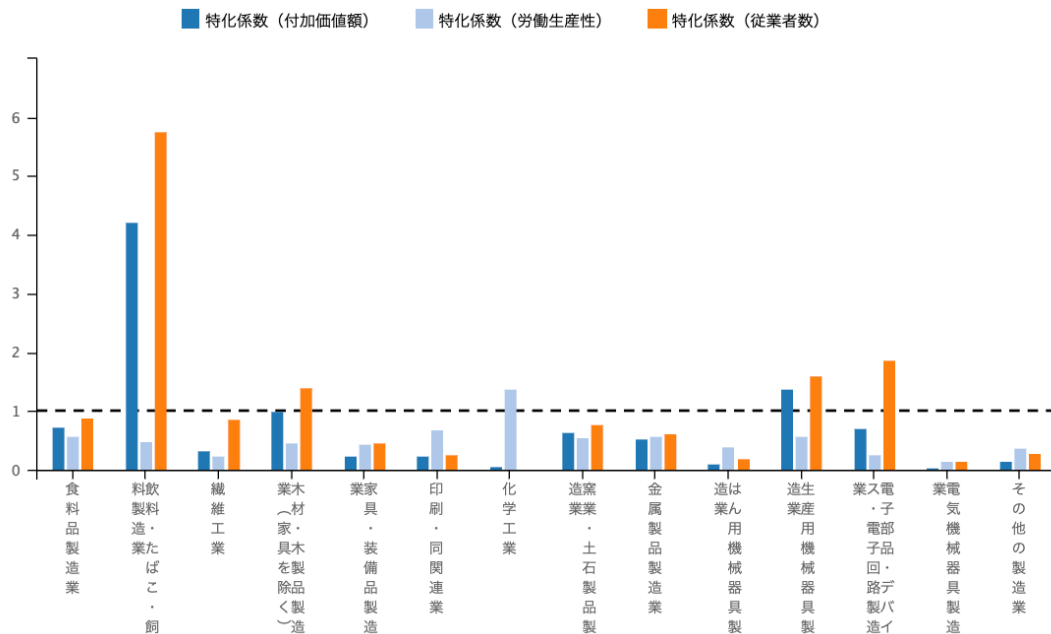
✓宿泊業、飲食サービス業の割合が国内・県内でも比較的高いのが特徴

基幹産業

産業別特化係数
2016年

指定地域：鹿児島県霧島市
指定産業：製造業

- ・特化係数は、域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。
- ・労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。
労働生産性 = 付加価値額（企業単位）÷ 従業者数（企業単位）

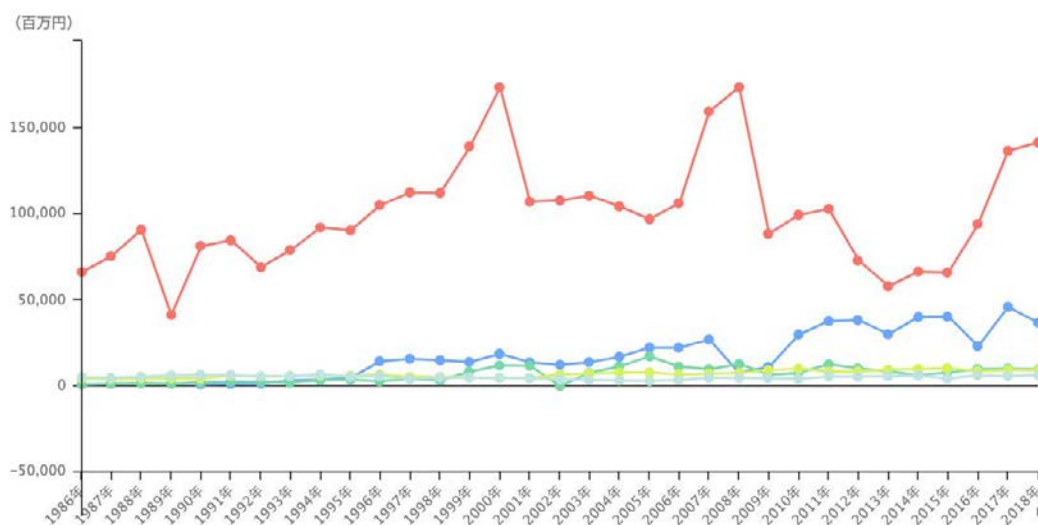


付加価値額（実数）の推移

鹿児島県霧島市

製造業すべての中分類

● 電子部品・デバイス・電子回路製造業 ● 電気機械器具製造業 ● 生産用機械器具製造業 ● 食料品製造業 ● 窯業・土石製品製造業



✓ 製造業の中でも飲料・タバコ・飼料製造業の特化係数が著しく高く、生産用機械器具製造業も比較的高い水準である

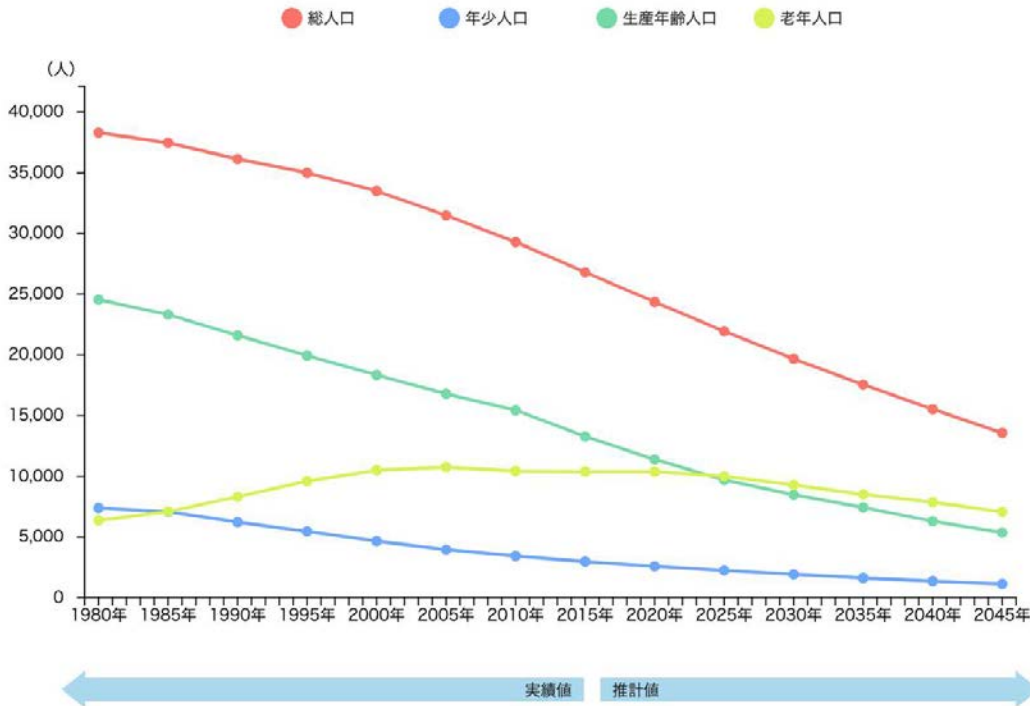
要点

✓ 電子部品・デバイス・電子回路製造業、電気機械器具製造業が大きな成長産業となっている

人口動態

人口推移

鹿児島県伊佐市



合計特殊出生率

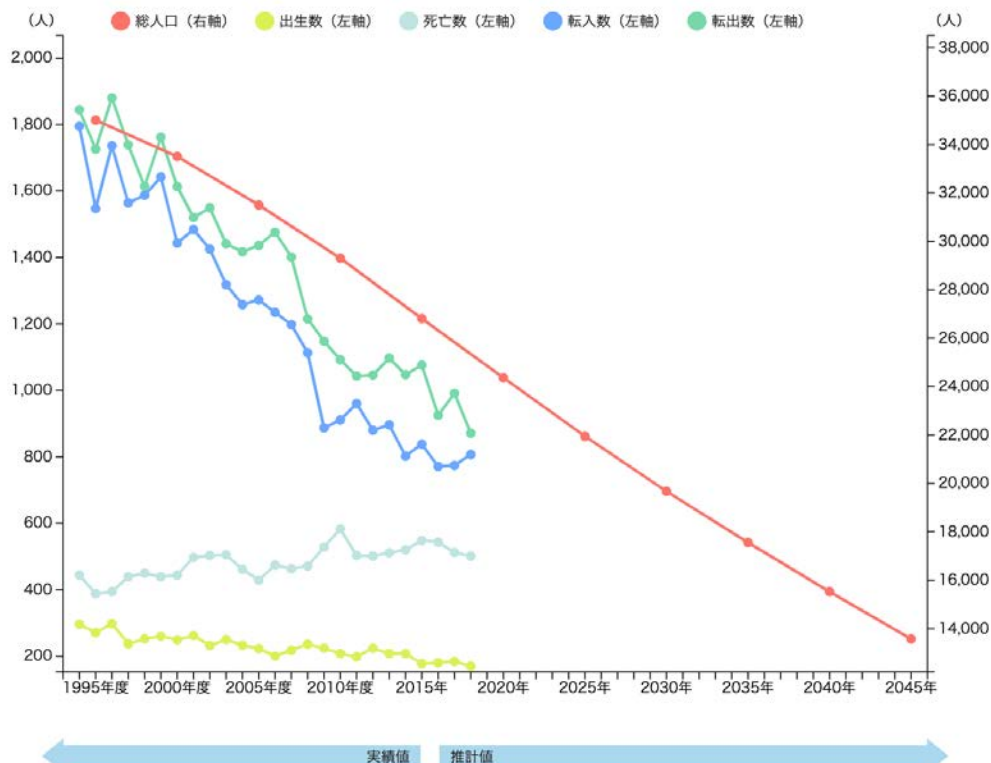
(2008年～2012年)

1.90

(人口動態保健所・市町村別統計より)

出生数・死亡数 / 転入数・転出数

鹿児島県伊佐市



要点

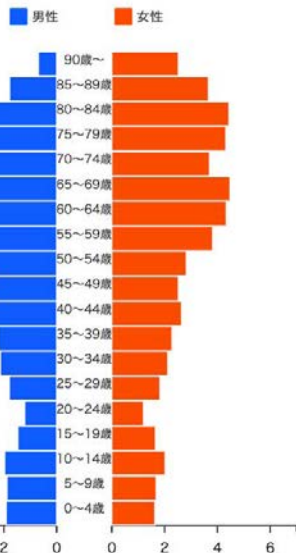
- ✓1980年時点で人口減少に転じている
- ✓合計特殊出生率は県内でも高い
- ✓県内でも生産年齢人口率が低く(47.3%)、高齢化率が高い(41.6%)
(2019年県統計より)
- ✓老年人口も2010年には減少に転じている
- ✓2025年には老年人口が生産年齢人口を上回る推計となっている
- ✓1995年時以降、自然減・社会減が続いている

人口動態

人口ピラミッド

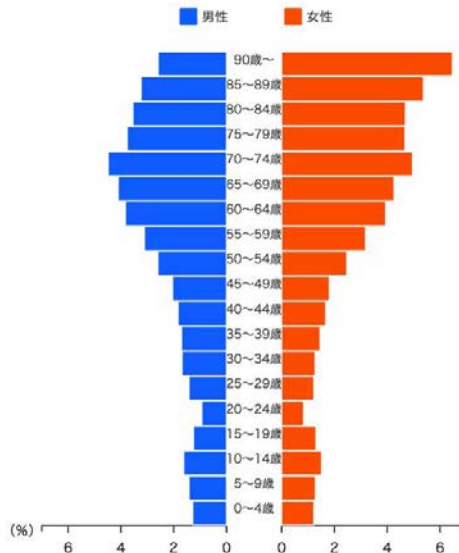
鹿児島県伊佐市

2015年



老年人口（65歳以上）：10,385人（38.74%）
生産年齢人口（15歳～64歳）：13,289人（49.57%）
年少人口（0歳～14歳）：2,974人（11.09%）

2045年



老年人口（65歳以上）：7,074人（52.12%）
生産年齢人口（15歳～64歳）：5,367人（39.54%）
年少人口（0歳～14歳）：1,132人（8.34%）

要点

【人口ピラミッド】

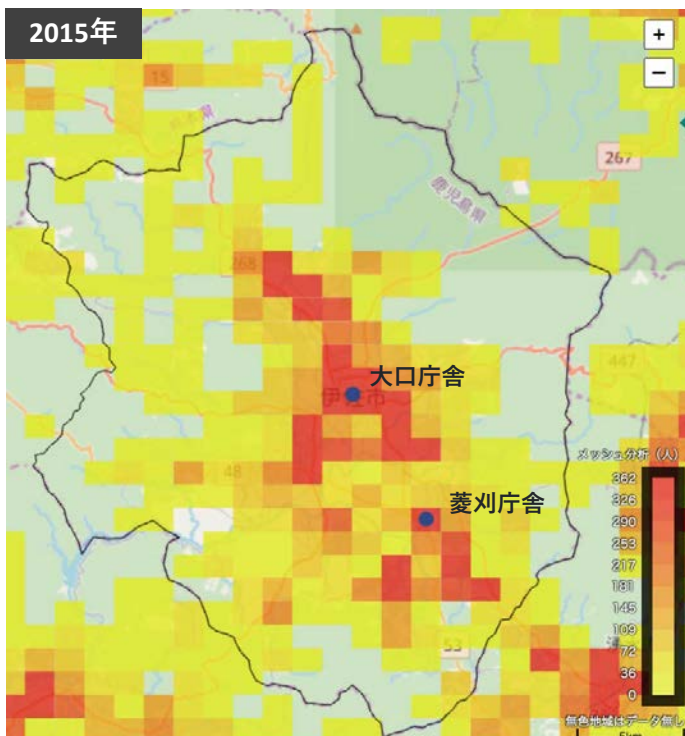
- ✓ 老年人口は2045年には総人口の半数以上に
- ✓ 年少人口は1985年からの30年間で4割程度に、2015年からの30年間でさらに4割以下に

【人口マップ】

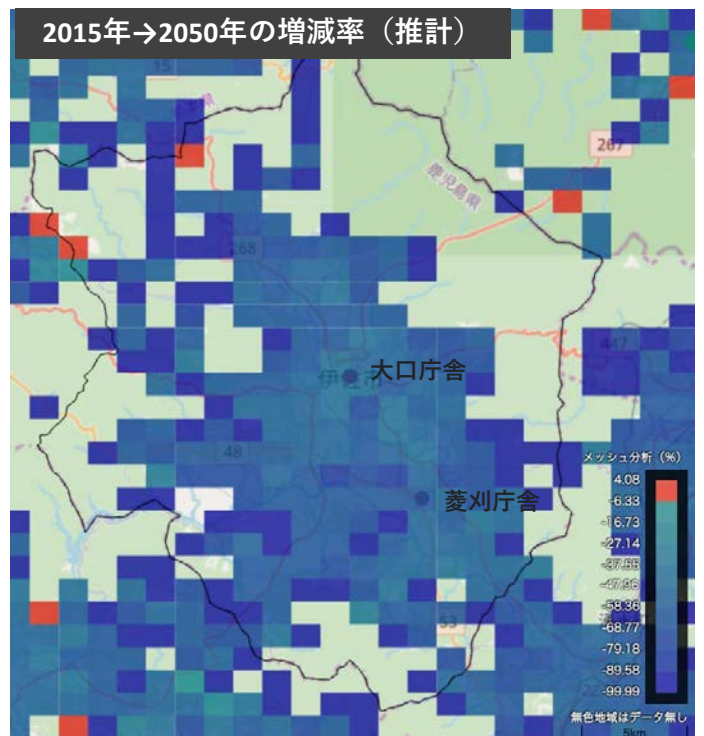
- ✓ 市域の中央部～南東部で帯状に人口が集中
- ✓ 市域の広い範囲で人口減少、人口集中地域の増減率が比較的緩やか

人口マップ

2015年



2015年→2050年の増減率（推計）



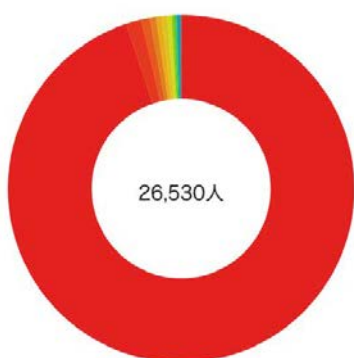
人口移動

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

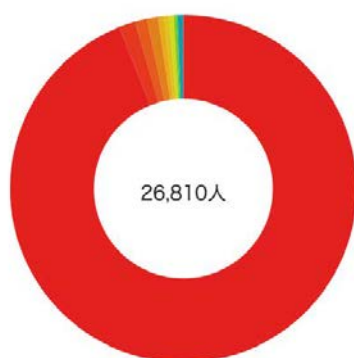
2015年 鹿児島県伊佐市

昼間人口：26,530人
夜間人口：26,810人
(昼夜間人口比率：98.96%)

昼間人口
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



夜間人口
(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



要点

【昼間人口・夜間人口】

✓昼間・夜間人口ともに
市内在住者が94%程度
と比較的移動が少ない

✓移動先は近隣市町が
多い傾向

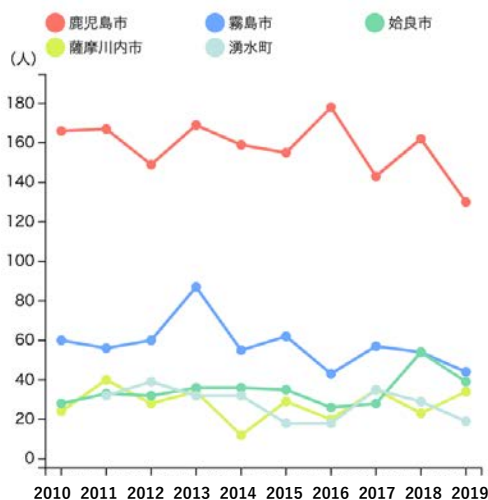
【転入・転出】

✓2019年の転入数740人
転出数924人
(転入者の約54%、転出者の約
58%が20代以下)

✓周辺市および鹿児島
市、福岡市への転出
超過が見られる

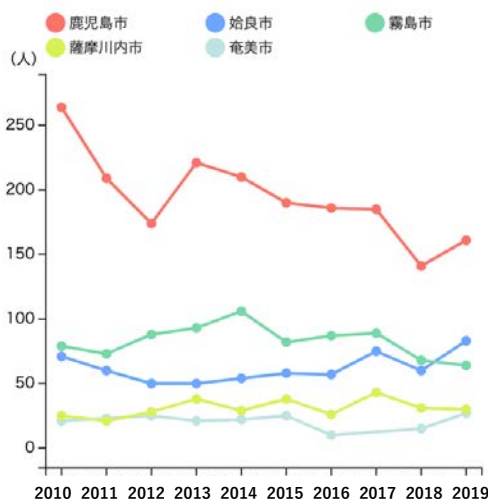
転入数上位地域

総数



転出数上位地域

総数



転出超過 (2019年)

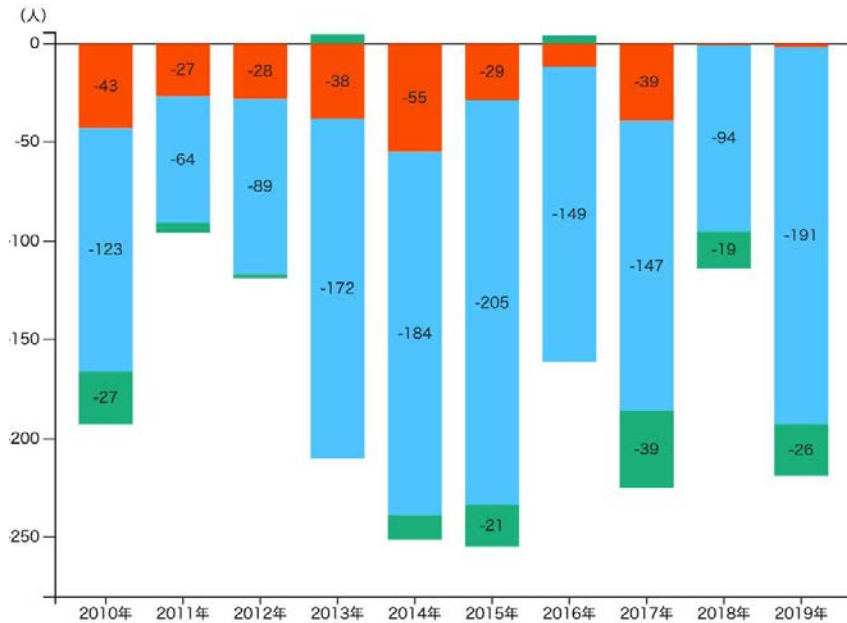
- 1位 鹿児島県始良市 44人 (20.85%)
- 2位 鹿児島県鹿児島市 31人 (14.69%)
- 3位 福岡県福岡市 25人 (11.85%)
- 4位 鹿児島県霧島市 20人 (9.48%)
- 5位 鹿児島県奄美市 16人 (7.58%)
- 6位 鹿児島県出水市 13人 (6.16%)
- 7位 鹿児島県日置市 11人 (5.21%)
- 8位 鹿児島県湧水町 6人 (2.84%)
- 9位 熊本県熊本市 4人 (1.90%)
- 10位 鹿児島県さつま町 2人 (0.95%)

人口移動

年齢階級別純移動数

鹿児島県伊佐市

0～14歳
15～64歳
65歳～



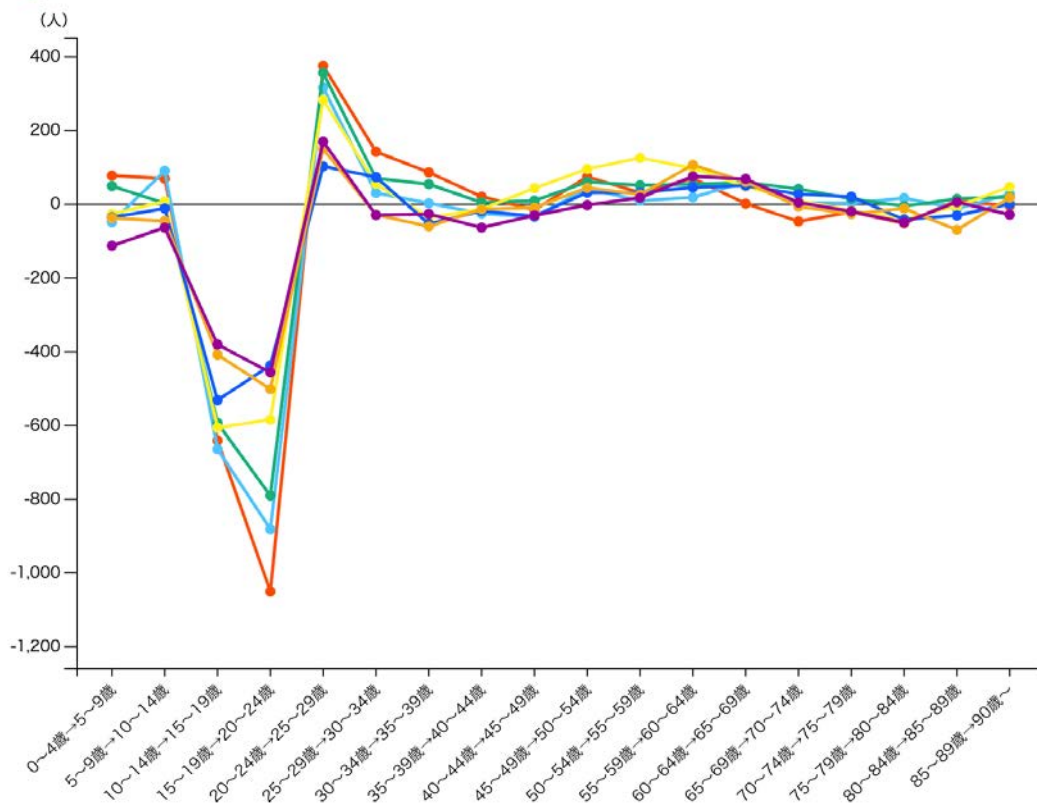
要点

- ✓15～24歳になるまでの就職・進学を機とした転出超過が顕著
(2010→2015年でこの世代が年平均167人転出超過)
- ✓25～29歳になるまでの転入超過も一定程度見られる
- ✓2018・2019年は子供連れ(年少人口)での転出超過が少ない

年齢階級別純移動数の時系列分析

鹿児島県伊佐市

1980年→1985年 1985年→1990年 1990年→1995年 1995年→2000年 2000年→2005年 2005年→2010年 2010年→2015年



地域経済循環

- ・「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。
- ・雇用者所得は、主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等、その他所得は、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の所得により構成
- ・その他支出は、政府支出+（地域内産業の移輸出-移輸入）により構成
- ・表中の順位は全国1,719市区町村におけるランキング

地域経済循環率
81.0%

地域経済循環図
2015年

指定地域：鹿児島県伊佐市

分配

雇用者所得

その他所得

所得
(一人当たり)

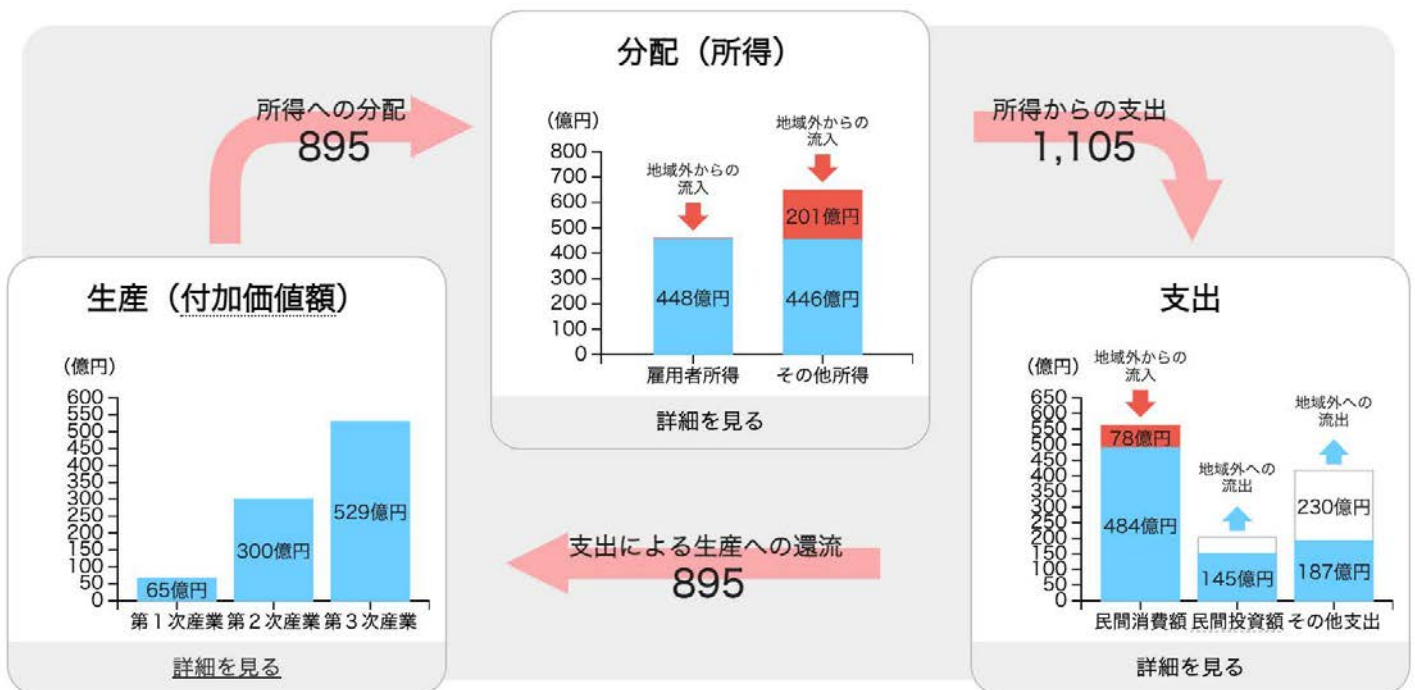
171万円

242万円

所得
(一人当たり)
順位

1,344位

634位



生産	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額 (一人当たり)	292万円	1,061万円	735万円
付加価値額 (一人当たり) 順位	637位	436位	943位

支出	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出率	16.0%	-28.6%	-55.1%
支出流出率 順位	447位	1,100位	646位

要点

✓雇用者所得は概ね域内での分配であるが、全国的にはやや低い水準
 その他所得は1／3ほどを域外からの流入が占め、全国的にやや高い水準

✓地域住民の消費（民間消費）を域内で吸収できている一方で、地域内産業の支出が域外に流出している

✓第1次・第2次産業の付加価値額は比較的高い水準である

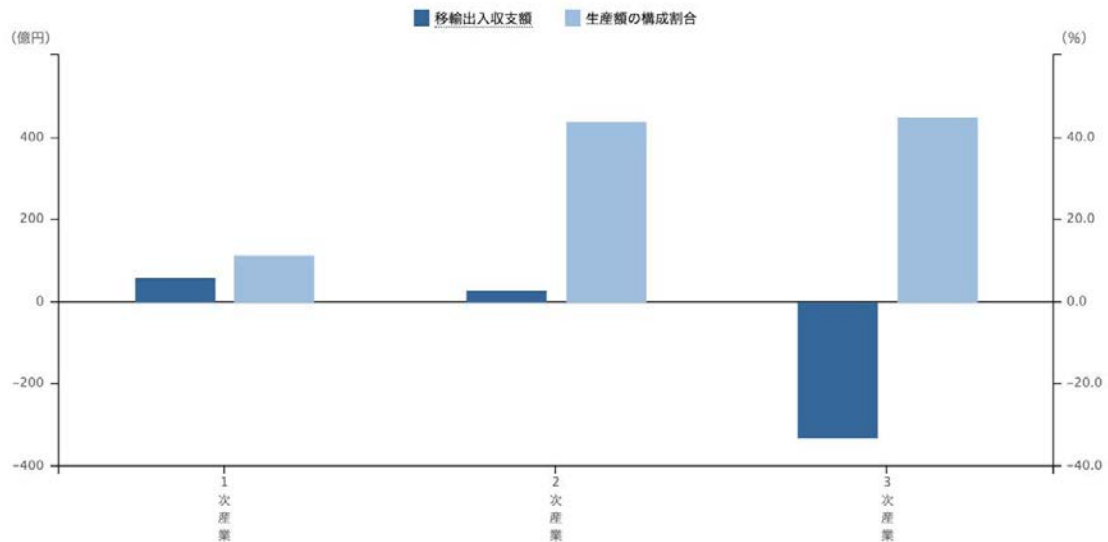
移輸出入額

移輸出入収支額（産業別）

2015年

指定地域：鹿児島県伊佐市

指定産業：すべての大分類>すべての中分類



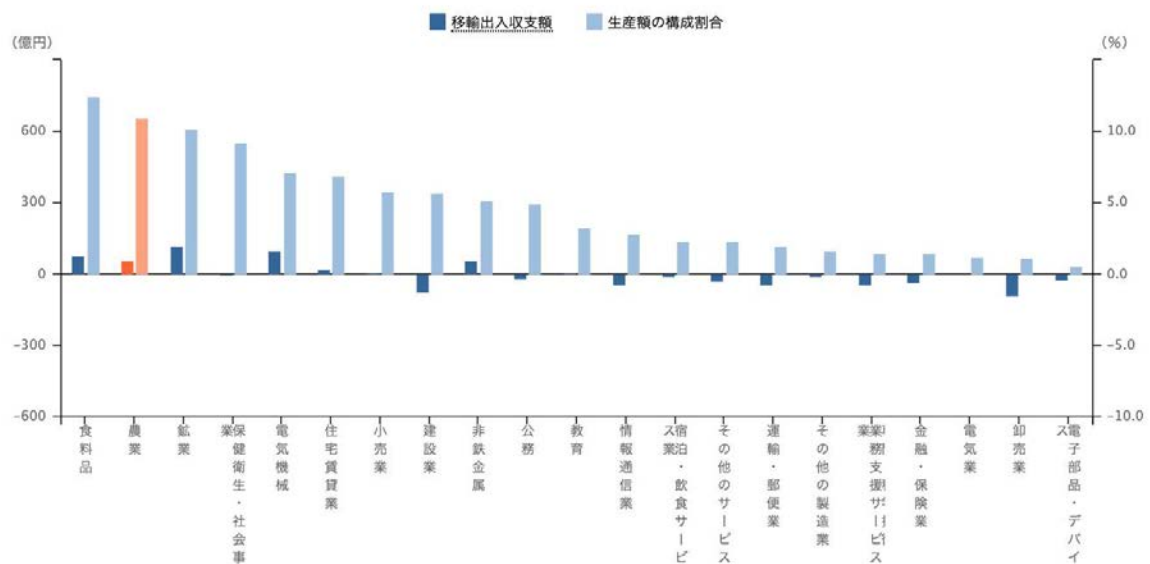
・「移輸出入収支額」とは、域外からの（移出・輸出に伴う）収入額から域外への（移入・輸入に伴う）支出額を差し引いたものである。プラスの産業は域外からお金を獲得している産業、マイナスの産業は域外にお金が流出していることを示す。

移輸出入収支額（産業別）

2015年

指定地域：鹿児島県伊佐市

指定産業：第1次産業>農業



✓産業別生産額は第1次が約11%、第2次が約44%、第3次が45%
第1次・第2次は域外の資本を獲得できている一方で、第3次は流出が見られる

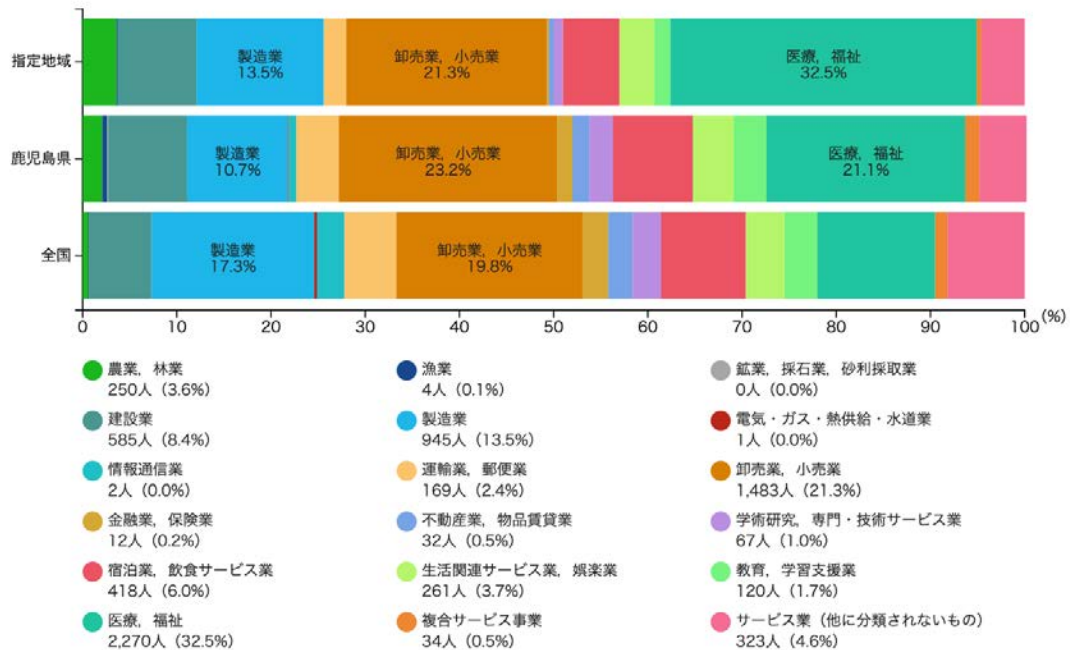
✓中分類では食料品、農業、鉱業の生産額割合・域外からの流入が大きい

要点

産業構造

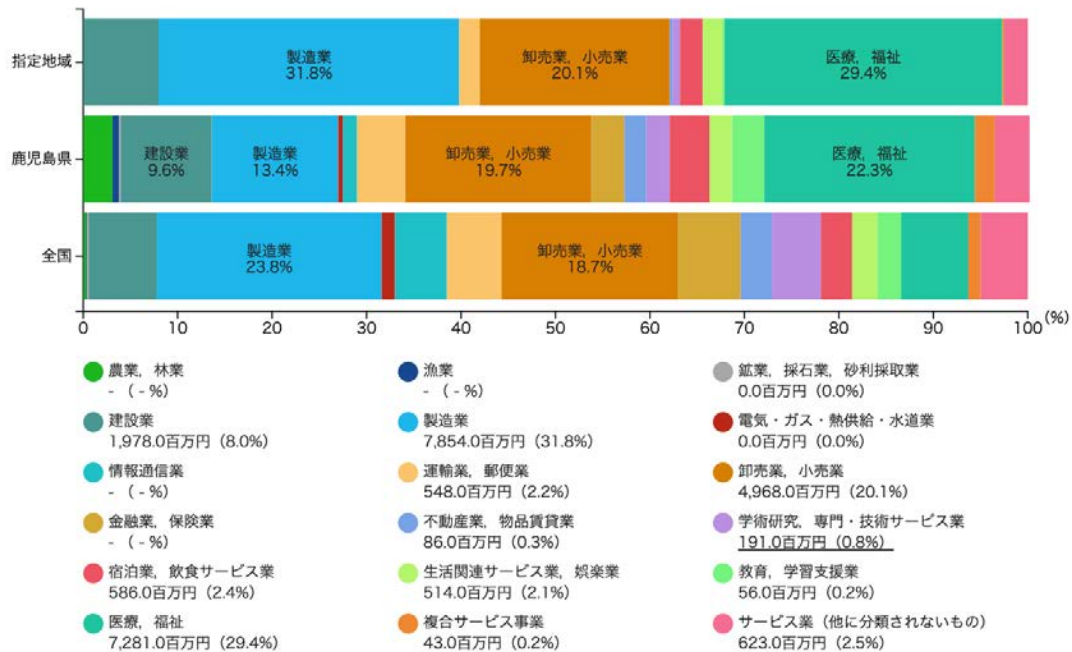
従業者数(企業単位) 2016年

指定地域：鹿児島県伊佐市



付加価値額(企業単位) 2016年

指定地域：鹿児島県伊佐市



✓市内従業者は医療・福祉関係（約33%）、卸売業・小売業（約21%）の割合が高い

要点 ✓付加価値額では製造業（約32%）、医療・福祉関係（約29%）の割合が高い

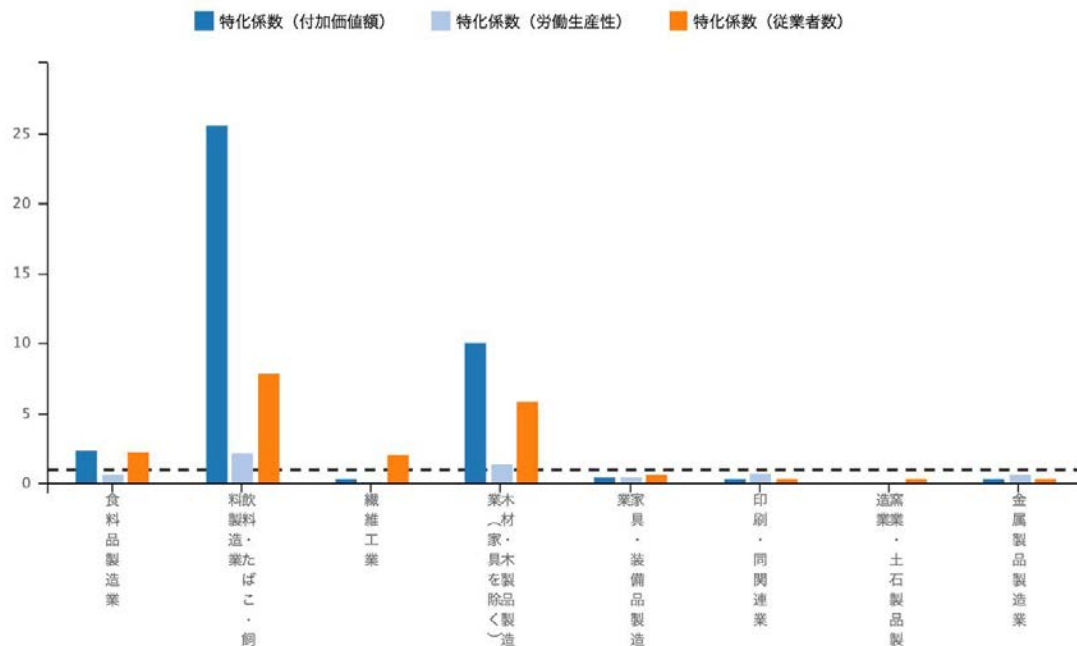
✓特に製造業の従業者数の割合に対して、付加価値額の割合が顕著に高いのが特徴

基幹産業

産業別特化係数 2016年

指定地域：鹿児島県伊佐市
指定産業：製造業

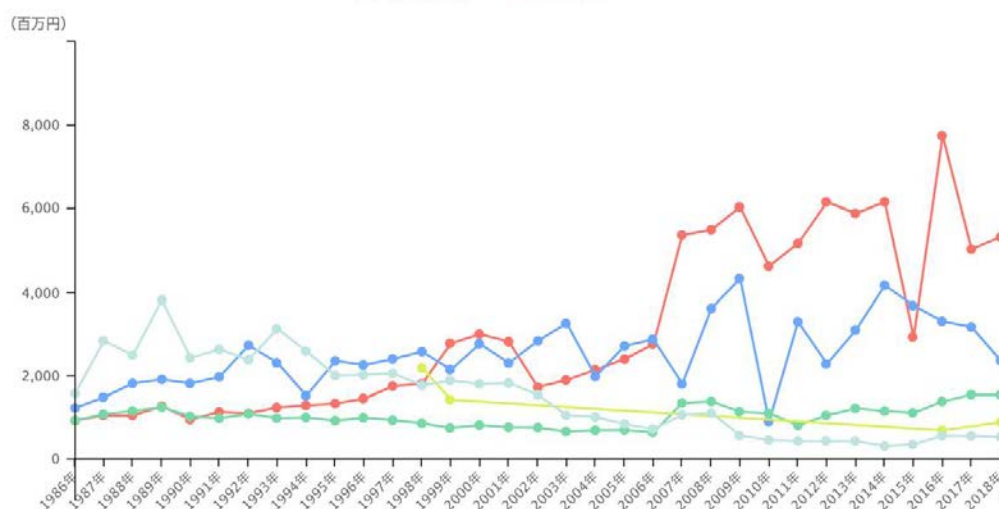
- ・特化係数は、域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。
- ・労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。
労働生産性＝付加価値額（企業単位）÷従業者数（企業単位）



付加価値額（実数）の推移

鹿児島県伊佐市
製造業すべての中分類

- 飲料・タバコ・飼料製造業
- 食料品製造業
- 木材・木製品製造業（家具を除く）
- 電子部品・デバイス・電子回路製造業
- 繊維工業



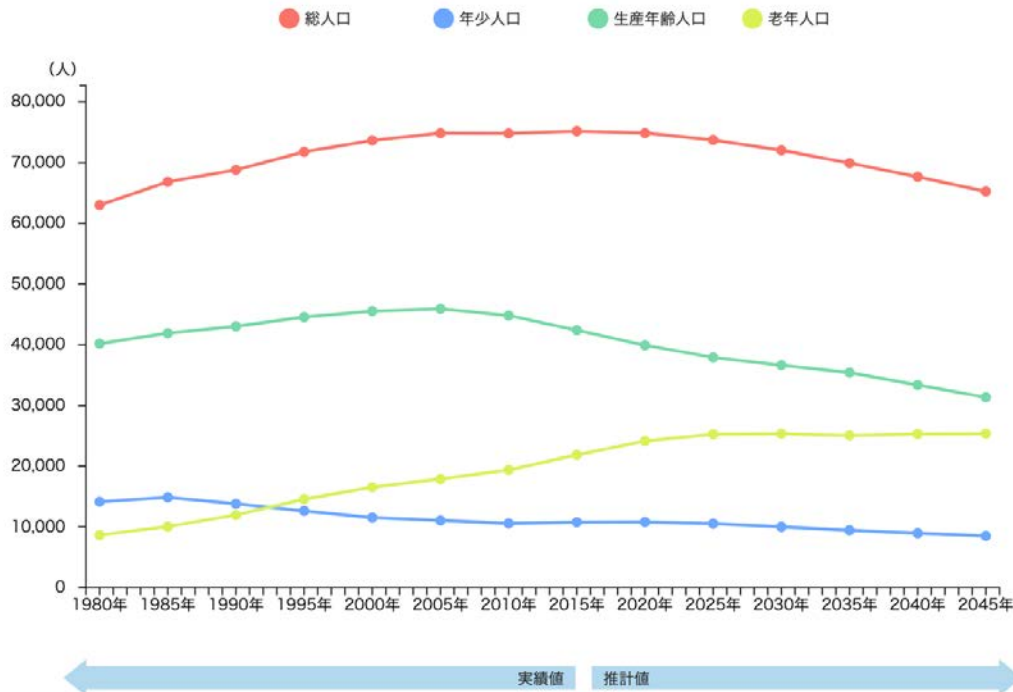
要点

- ✓製造業の中でも飲料・タバコ・飼料製造業、木材・木製品製造業の特化係数が著しく大きい
- ✓飲料・タバコ・飼料製造業の成長が大きく、食料品製造業もやや成長傾向にある

人口動態

人口推移

鹿児島県始良市



合計特殊出生率

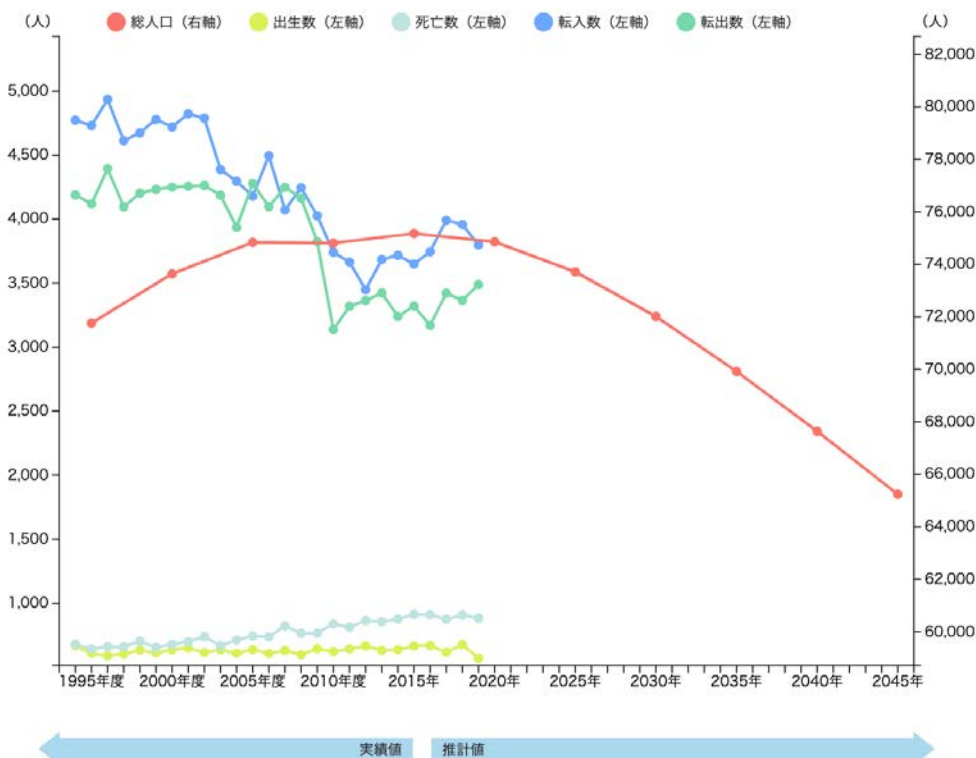
(2008年～2012年)

1.55

(人口動態保健所・市町村別統計より)

出生数・死亡数 / 転入数・転出数

鹿児島県始良市



要点

✓2015年をピークに人口減少に転じている

✓合計特殊出生率は県全体内より低い

✓3区分の構成割合は県平均と同程度
 (年少:14.5%、生産年齢:54.5%、老年:31.0%)
 (2019年県統計より)

✓2045年まで老年人口は増加する見込みであるが、この時点でも生産年齢人口が上回る推計となっている

✓1995年時以降、概ね自然減・社会増の傾向

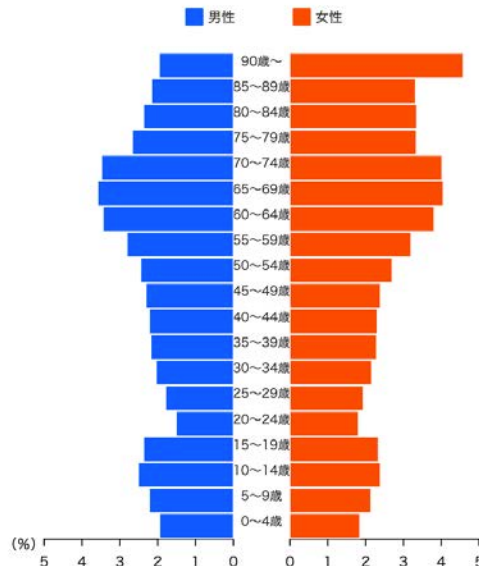
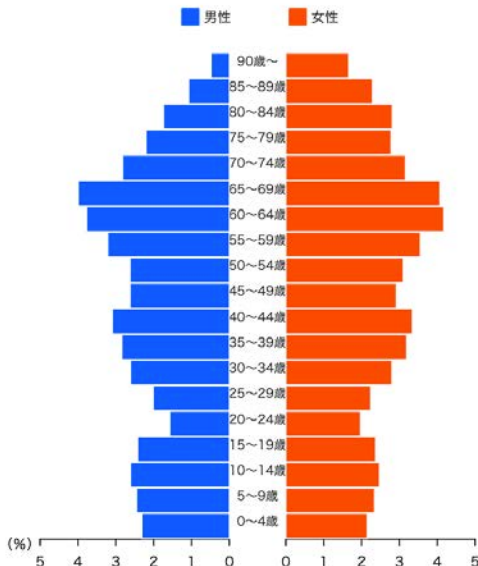
人口動態

人口ピラミッド

鹿児島県始良市

2015年

2045年



老年人口 (65歳以上) : 21,858人 (29.08%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 42,403人 (56.41%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 10,777人 (14.34%)

老年人口 (65歳以上) : 25,359人 (38.87%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 31,355人 (48.06%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 8,523人 (13.06%)

要点

【人口ピラミッド】

✓2015年からの30年間で高齡化率の増加等は見られるものの、バランスは現時点に比較的近い

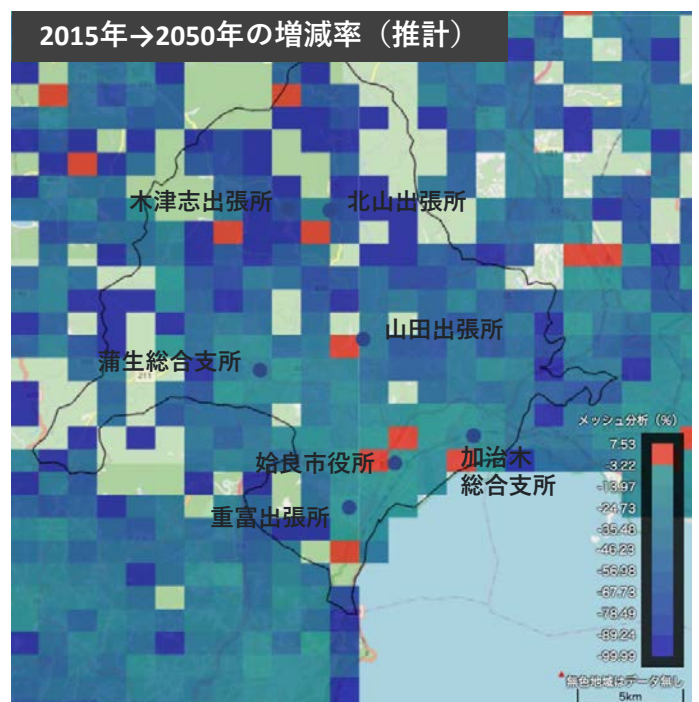
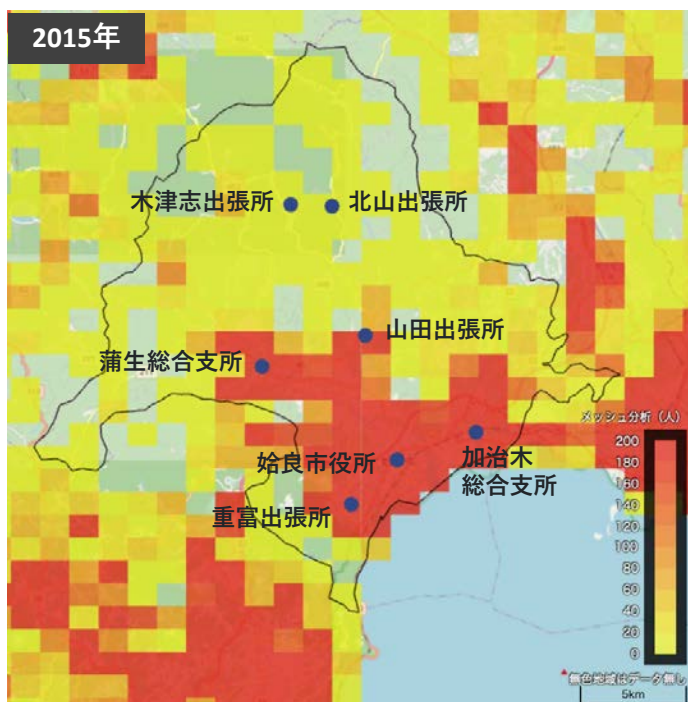
(2015年人口に対して2045年人口は、老年:116%,生産年齢:74%,年少:79%)

【人口マップ】

✓本庁舎～総合支所に渡るエリアに人口が集中し、その他エリアは同程度の密度となっている

✓増減率は人口集中地域では比較的緩やかに減少、周縁部では大きく減少

人口マップ



人口移動

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

2015年 鹿児島県始良市

昼間人口：68,922人

夜間人口：75,173人

(昼夜間人口比率：91.68%)

要点

【昼間人口・夜間人口】

✓夜間人口の2割弱が
日中に市外へ移動して
いる

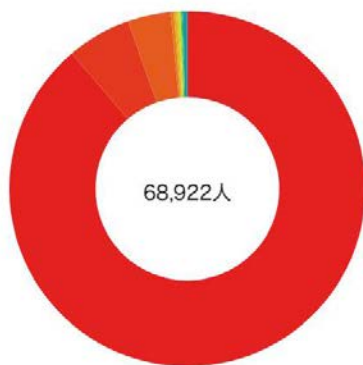
✓移動先は鹿児島市及び
霧島市が多い

【転入・転出】

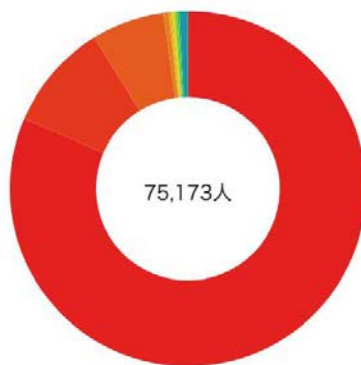
✓2019年の転入数3614人
転出数3406人
(転入者の約52%、転出者の約
60%が20代以下)

✓特に鹿児島市からの転
入超過、福岡市などの
県外への転出超過が特
徴的

昼間人口
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)

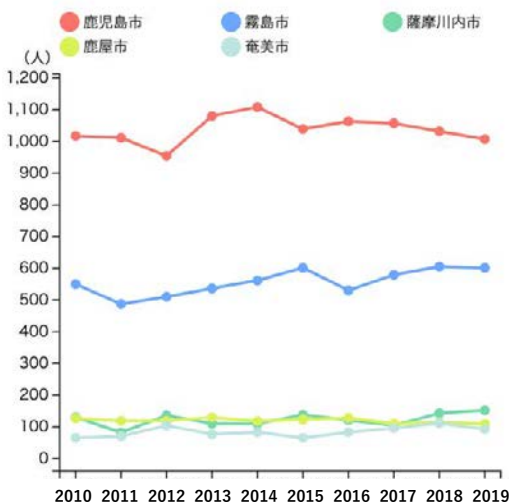


夜間人口
(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



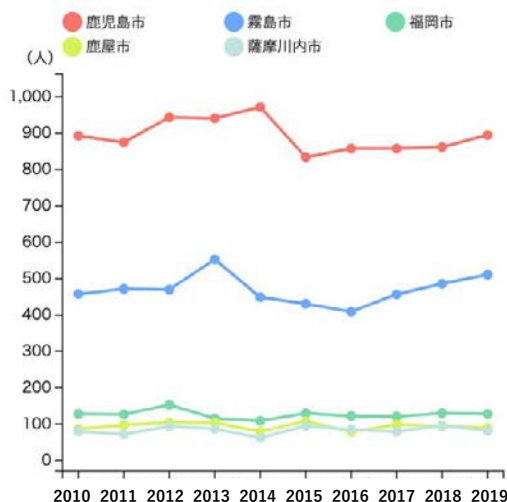
転入数上位地域

総数



転出数上位地域

総数



転出超過 (2019年)

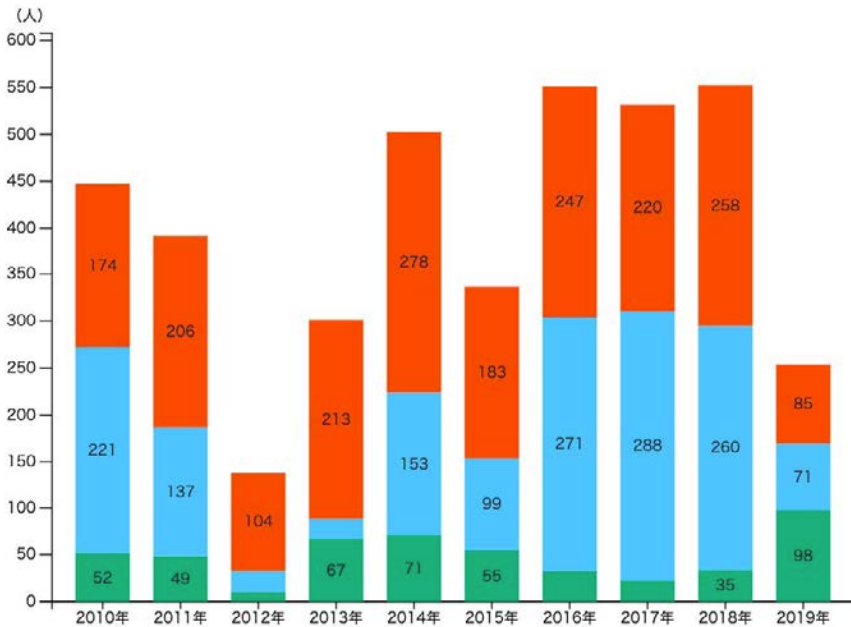
- 1位 福岡県福岡市 52人 (19.70%)
- 2位 熊本県熊本市 29人 (10.98%)
- 3位 宮崎県都城市 13人 (4.92%)
- 3位 大阪府大阪市 13人 (4.92%)
- 5位 宮崎県宮崎市 12人 (4.55%)
- 5位 神奈川県川崎市 12人 (4.55%)
- 7位 鹿児島県南九州市 9人 (3.41%)
- 8位 神奈川県横浜市 6人 (2.27%)
- 9位 鹿児島県志布志市 5人 (1.89%)
- 9位 愛知県名古屋市 5人 (1.89%)

人口移動

年齢階級別純移動数

鹿児島県始良市

0～14歳
15～64歳
65歳～

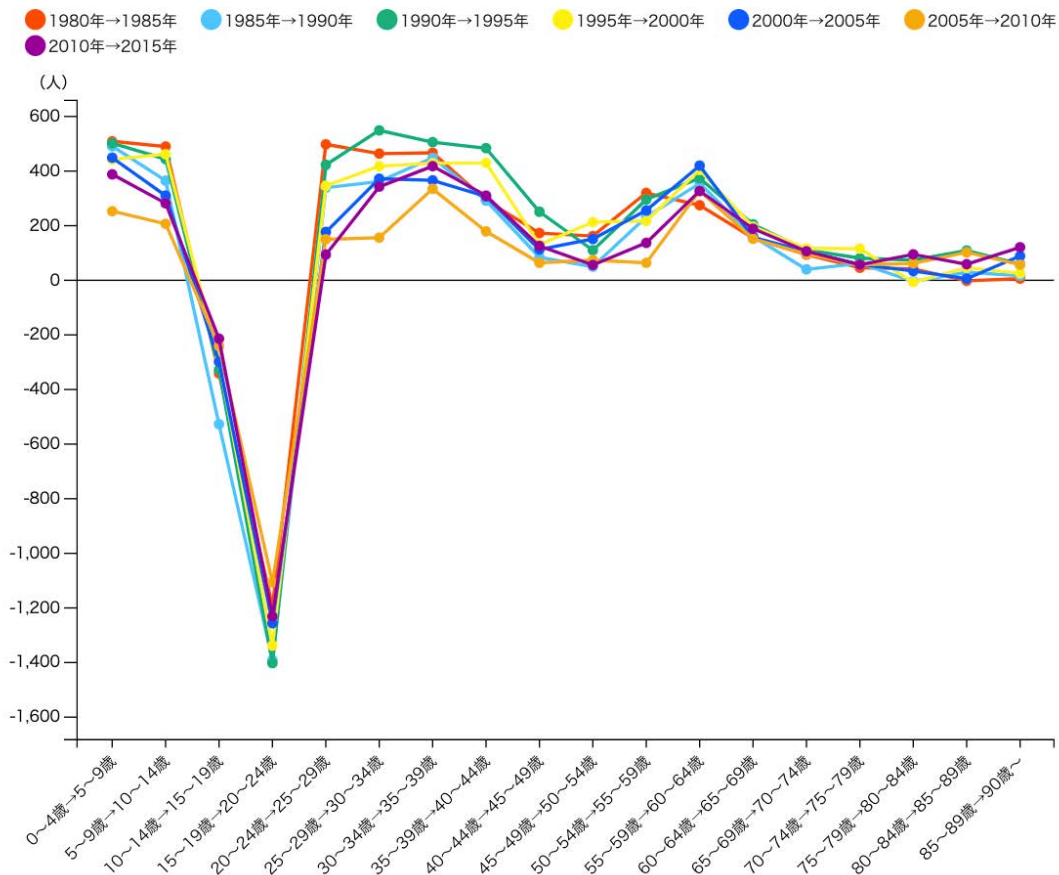


要点

- ✓全年齢階級で純増となっている
- ✓特に20～24歳までの進学・就職等での流出が大きい
- ✓30代前後の子育て世代と定年後の流入超過が顕著となっている

年齢階級別純移動数の時系列分析

鹿児島県始良市



地域経済循環

- ・「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。
- ・雇用者所得は、主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等、その他所得は、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の所得により構成
- ・その他支出は、政府支出+（地域内産業の移輸出-移輸入）により構成
- ・表中の順位は全国1,719市区町村におけるランキング

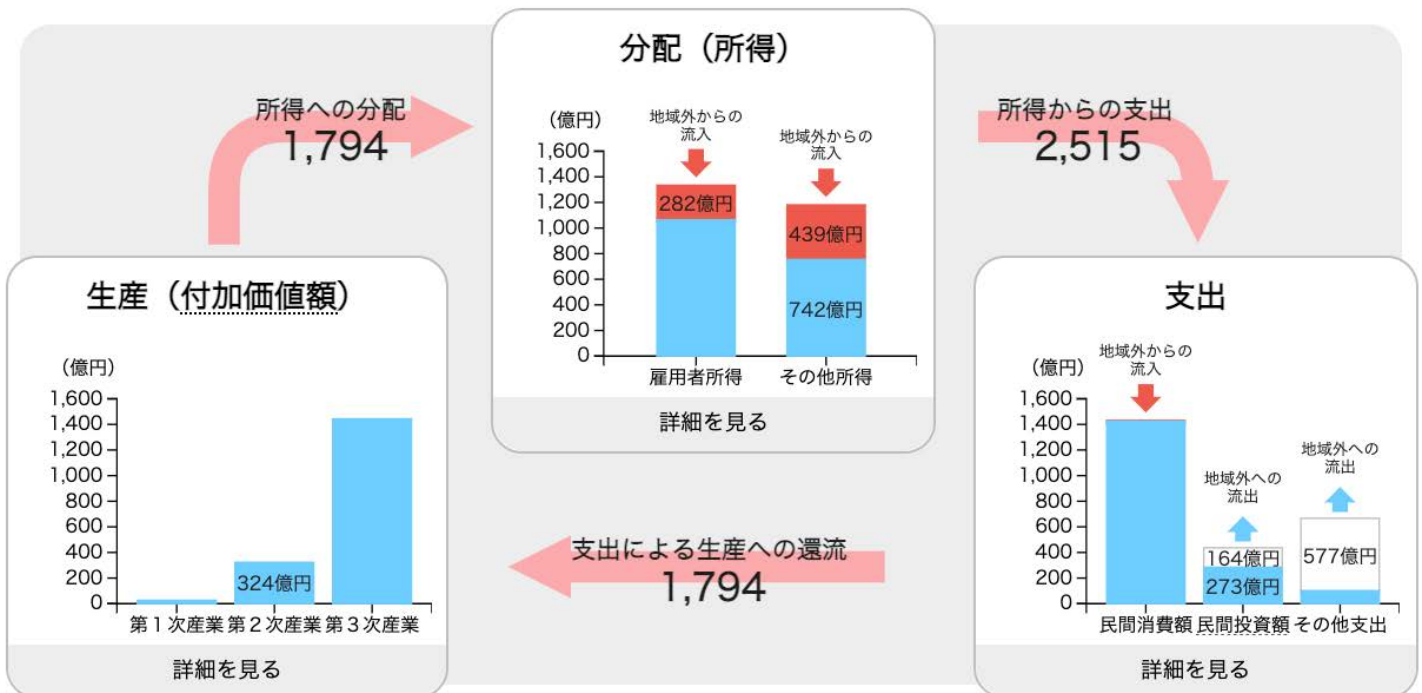
地域経済循環率
71.3%

地域経済循環図
2015年

指定地域：鹿児島県始良市

分配

	雇用者所得	その他所得
所得（一人当たり）	178万円	157万円
所得（一人当たり）順位	1,220位	1,531位



生産	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額（一人当たり）	265万円	590万円	691万円
付加価値額（一人当たり）順位	770位	1,308位	1,250位

支出

	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出率	1.3%	-37.5%	-86.5%
支出流出率順位	850位	1,308位	1,211位

要点

- ✓雇用者所得・その他所得ともに域外からの流入の割合が高い傾向にあるが、全国的には低い水準となっている
- ✓地域住民の消費（民間消費）を域内で吸収できている一方で、地域内産業の支出が域外への流出が比較的大きい
- ✓第2次・第3次産業の付加価値額が比較的低い水準である

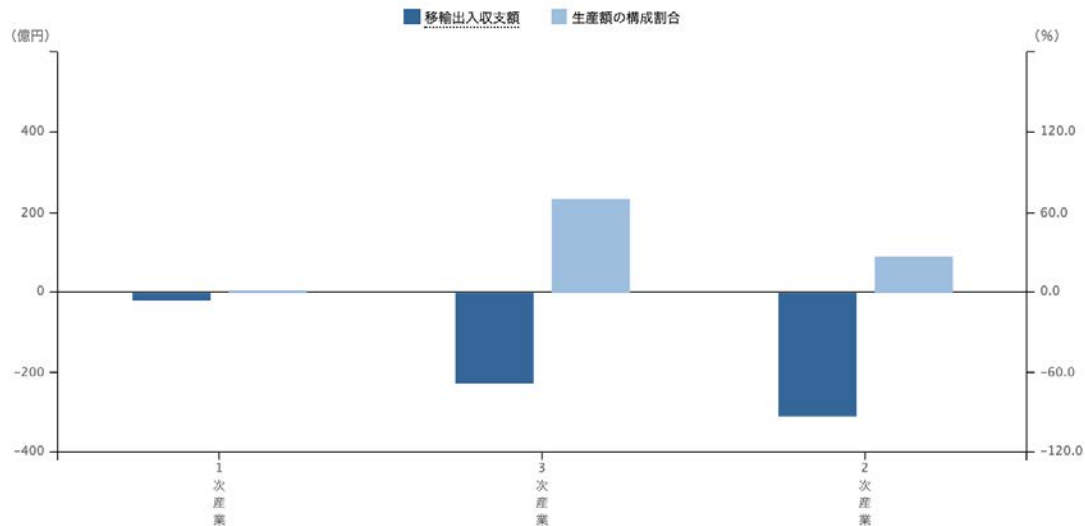
移輸出入額

移輸出入収支額（産業別）

2015年

指定地域：鹿児島県始良市

指定産業：すべての大分類＞すべての中分類



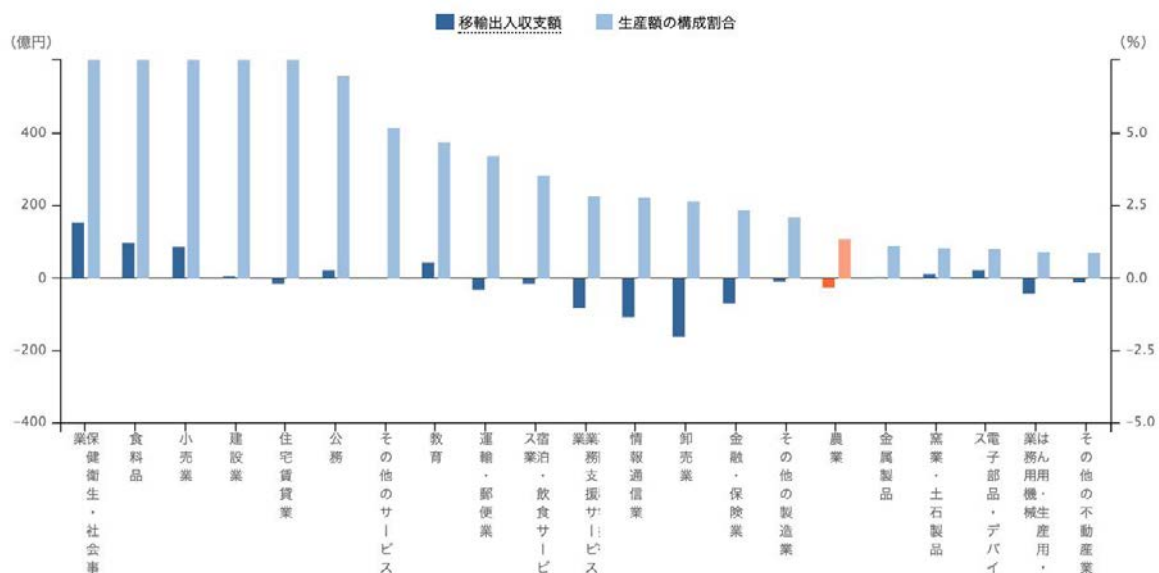
・「移輸出入収支額」とは、域外からの（移出・輸出に伴う）収入額から域外への（移入・輸入に伴う）支出額を差し引いたものである。プラスの産業は域外からお金を獲得している産業、マイナスの産業は域外にお金が流出していることを示す。

移輸出入収支額（産業別）

2015年

指定地域：鹿児島県始良市

指定産業：第1次産業＞農業



✓産業別生産額は第1次が約2%、第2次が約27%、第3次が約71%
第1次～第3次ともに域内の資本の流出が見られる

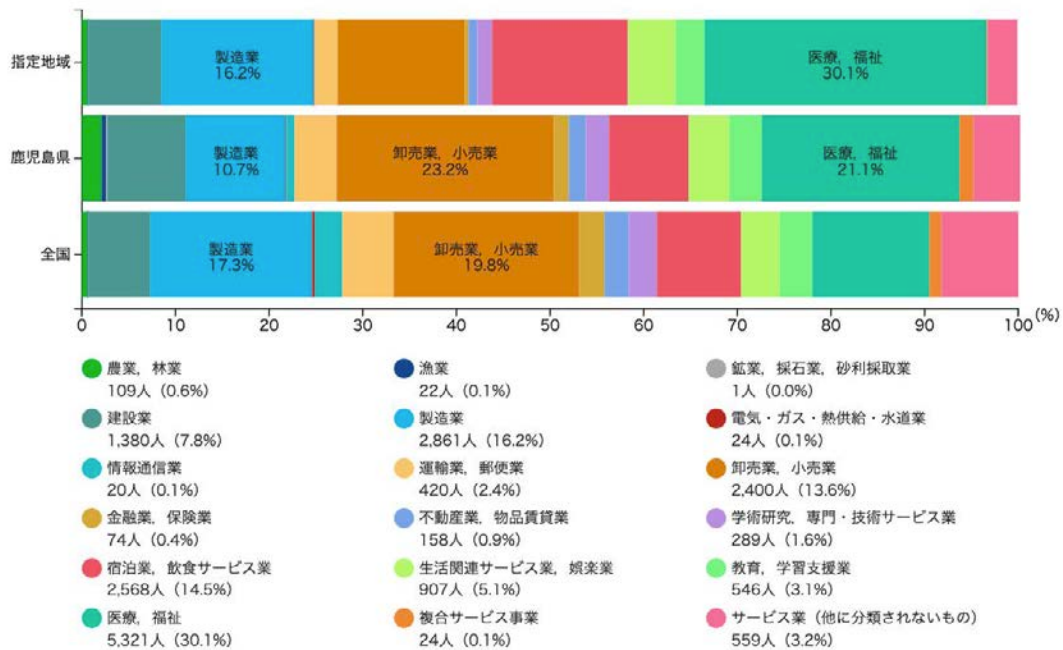
要点

✓中分類では保険衛生・社会事業、食料品、小売業の生産額割合・域外からの流入が大きい

産業構造

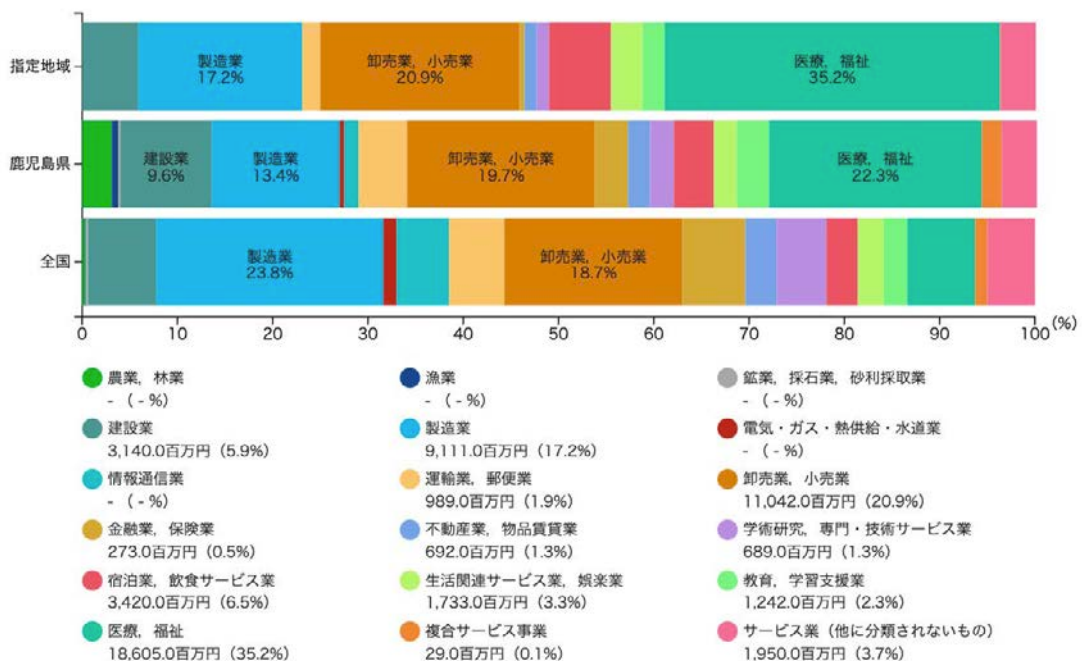
従業者数(企業単位) 2016年

指定地域：鹿児島県始良市



付加価値額(企業単位) 2016年

指定地域：鹿児島県始良市



✓市内従業者は医療・福祉関係（約30%）、製造業（約16%）の割合が高い

要点

✓付加価値額では医療・福祉関係（約35%）、卸売業・小売業（約20%）の割合が高い

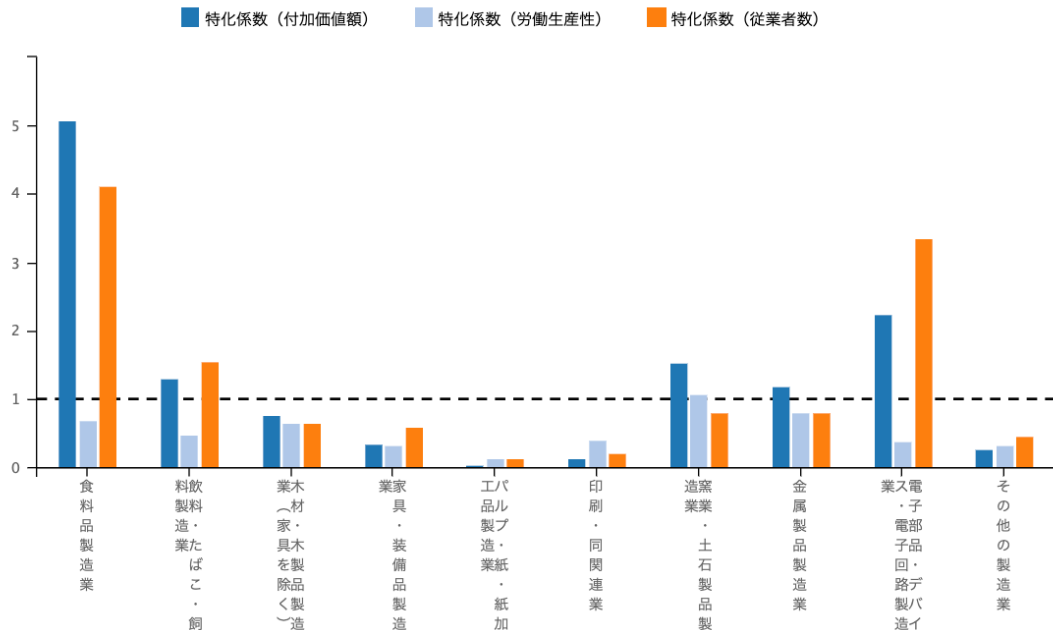
✓特に宿泊業・飲食サービス業の割合が国内・県内でも高いのが特徴

基幹産業

産業別特化係数
2016年

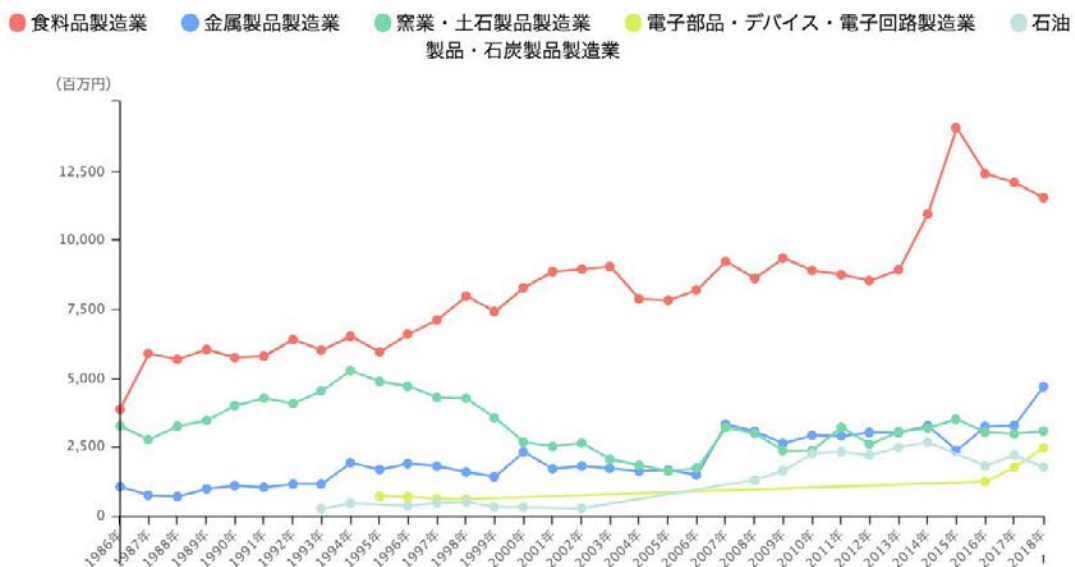
指定地域：鹿児島県始良市
指定産業：製造業

- ・特化係数は、域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。
- ・労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。
労働生産性 = 付加価値額（企業単位）÷ 従業者数（企業単位）



付加価値額（実数）の推移

鹿児島県始良市
製造業すべての中分類



✓ 製造業の中でも食料品製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業の特化係数が著しく大きい

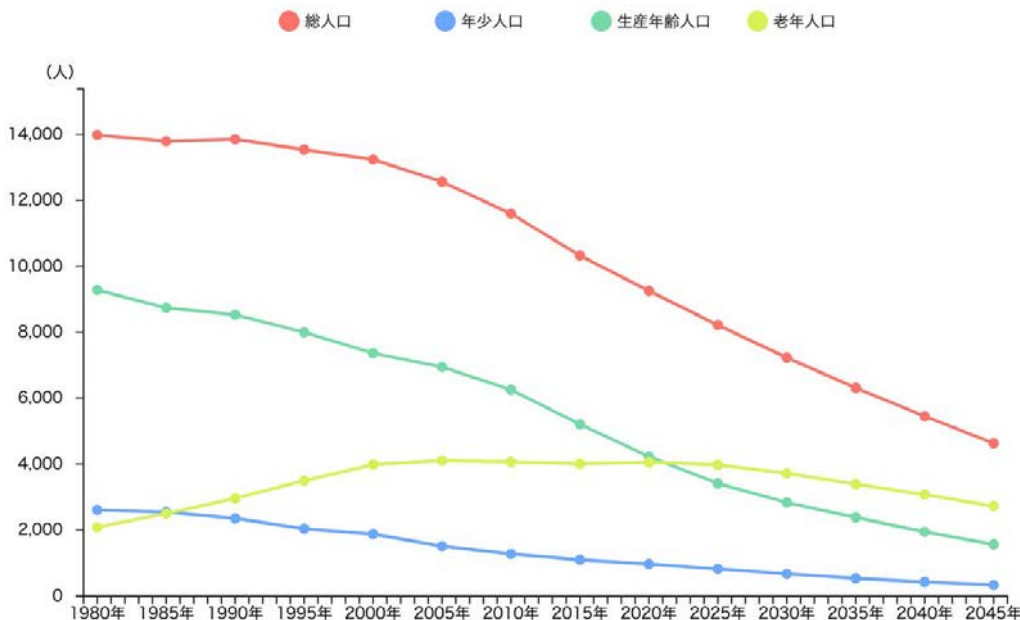
要点

✓ 80年代以降、食料品製造業、金属製品製造業が成長産業となっており、近年は、電子部品・デバイス・電子回路製造業が急激に成長し始めている

人口動態

人口推移

鹿児島県湧水町



合計特殊出生率

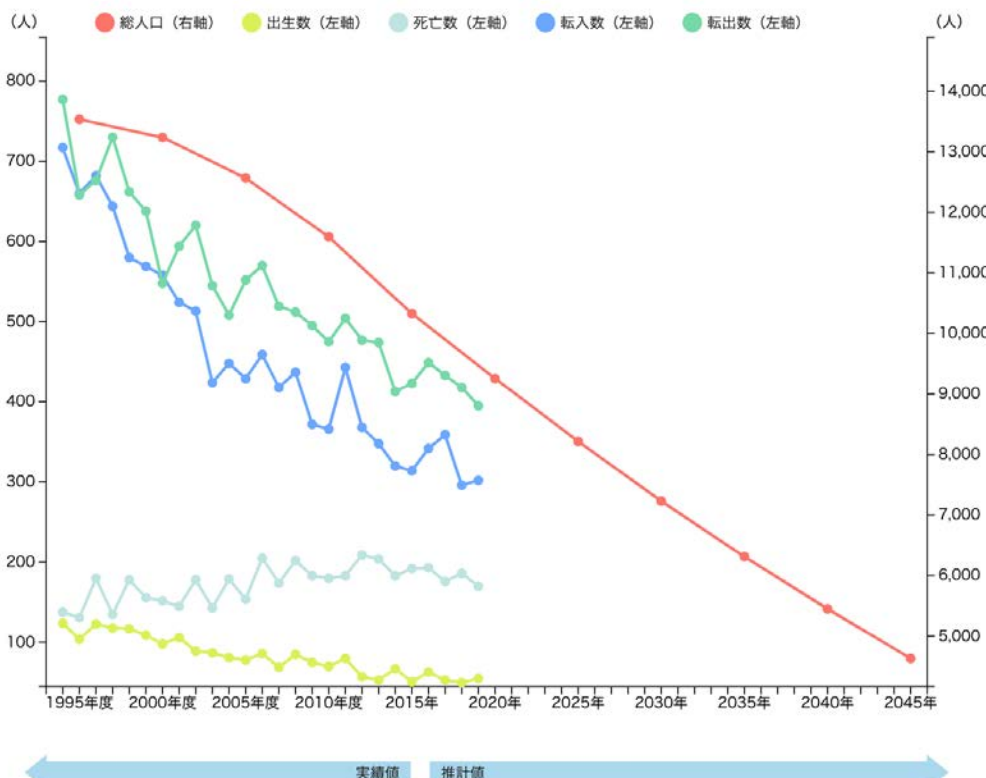
(2008年～2012年)

1.79

(人口動態保健所・市町村別統計より)

出生数・死亡数 / 転入数・転出数

鹿児島県湧水町



要点

- ✓1980年時点で人口減少に転じている
- ✓合計特殊出生率は全体と同程度
- ✓県内でも年少・生産年齢人口の割合が低く(10.0%・47.3%)、高齢化率が高い(42.7%)
(2019年県統計より)
- ✓老年人口も2025年には減少に転じる見込み
- ✓2020～2025年にかけて老年人口が生産年齢人口を上回る見込み
- ✓1995年時以降、概ね自然減・社会減で、減少数も拡大している

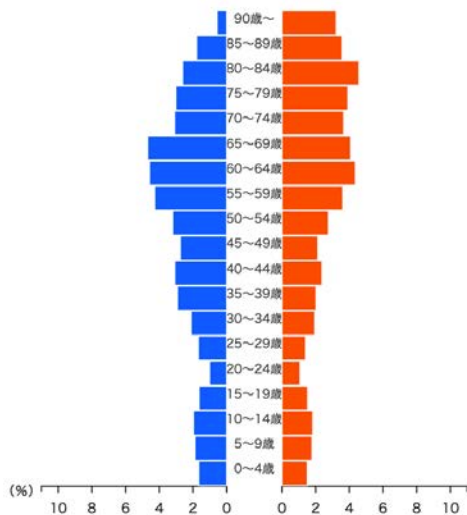
人口動態

人口ピラミッド

鹿児島県湧水町

2015年

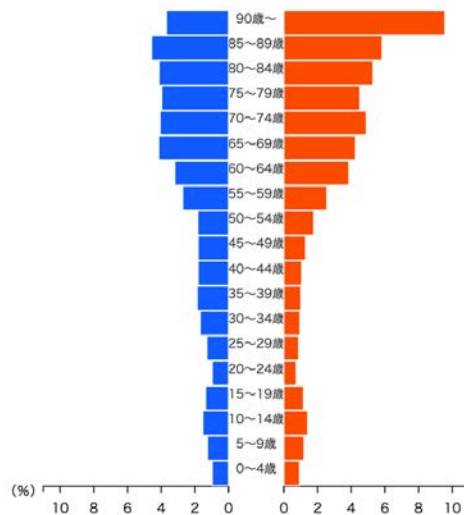
■ 男性 ■ 女性



老年人口 (65歳以上) : 4,007人 (38.8%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 5,213人 (50.48%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 1,098人 (10.63%)

2045年

■ 男性 ■ 女性



老年人口 (65歳以上) : 2,729人 (58.89%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 1,567人 (33.82%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 338人 (7.29%)

要点

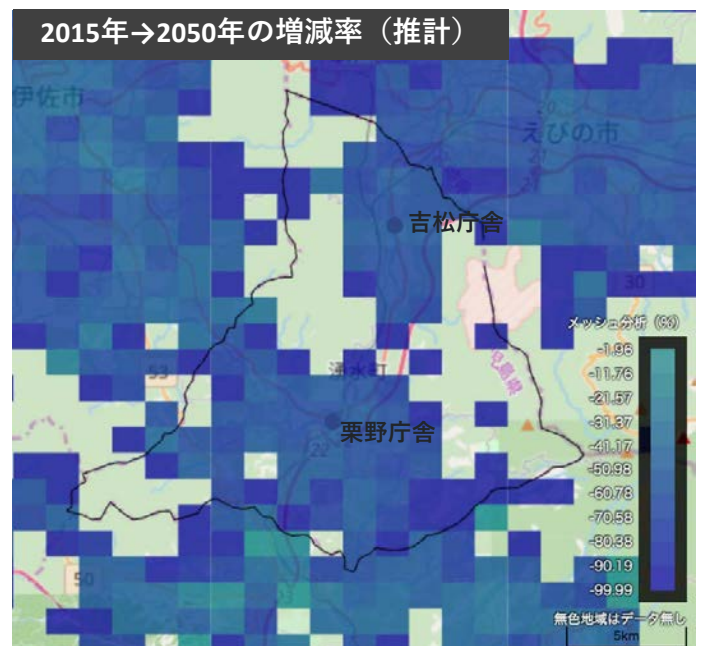
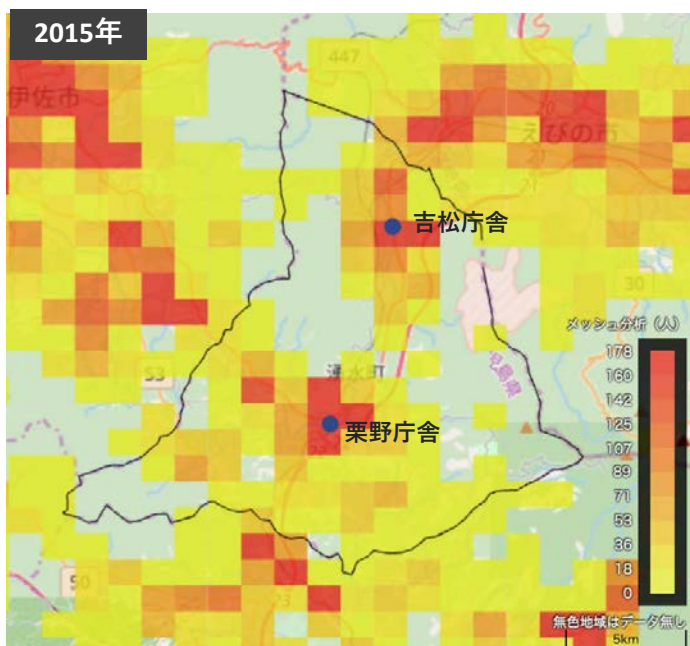
【人口ピラミッド】

- ✓ 老年人口は2045年には総人口の 6 割程度に
- ✓ 2015年からの30年間で生産年齢人口・年少人口ともに 3 割程度に

【人口マップ】

- ✓ 両庁舎周辺に人口が集中
- ✓ 町域のほとんどのエリアで人口が減少する見込み (特に周縁部では減少率が 90%以上と人が住まなくなるエリアも)

人口マップ



人口移動

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

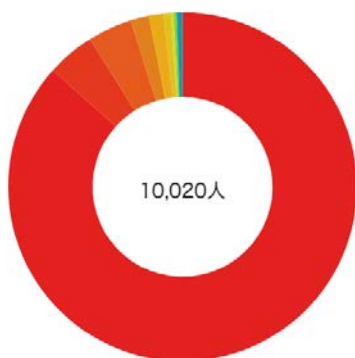
2015年 鹿児島県湧水町

昼間人口：10,020人

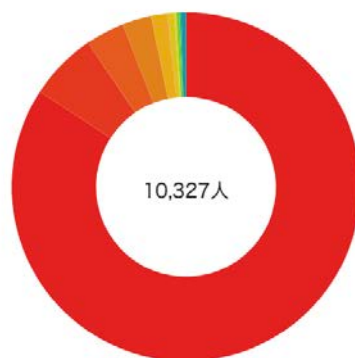
夜間人口：10,327人

(昼夜間人口比率：97.03%)

昼間人口
(指定地域内に日中滞在する人の居住地)



夜間人口
(指定地域内に居住する人の日中の滞在地)



要点

【昼間人口・夜間人口】

✓昼間人口の約87%、夜間人口の約84%が町内在住者と比較的移動が見られる

✓移動先は近隣市町が多い

【転入・転出】

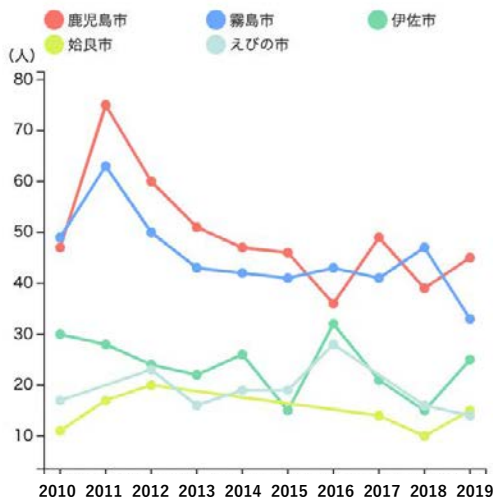
✓2019年の転入数295人
転出数369人
(転入者の約51%、転出者の約62%が20代以下)

要点

✓近隣市および鹿児島市への転出超過が見られる

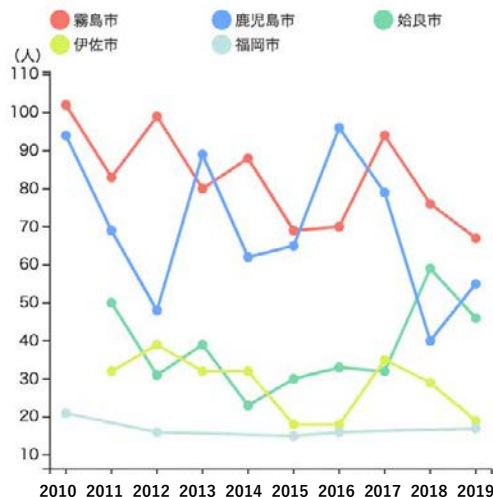
転入数上位地域

総数



転出数上位地域

総数



転出超過 (2019年)

- 1位 鹿児島県霧島市 34人 (31.78%)
- 2位 鹿児島県始良市 31人 (28.97%)
- 3位 鹿児島県鹿児島市 10人 (9.35%)
- 4位 その他 32人 (29.91%)

人口移動

年齢階級別純移動数

鹿児島県湧水町

0～14歳
15～64歳
65歳～



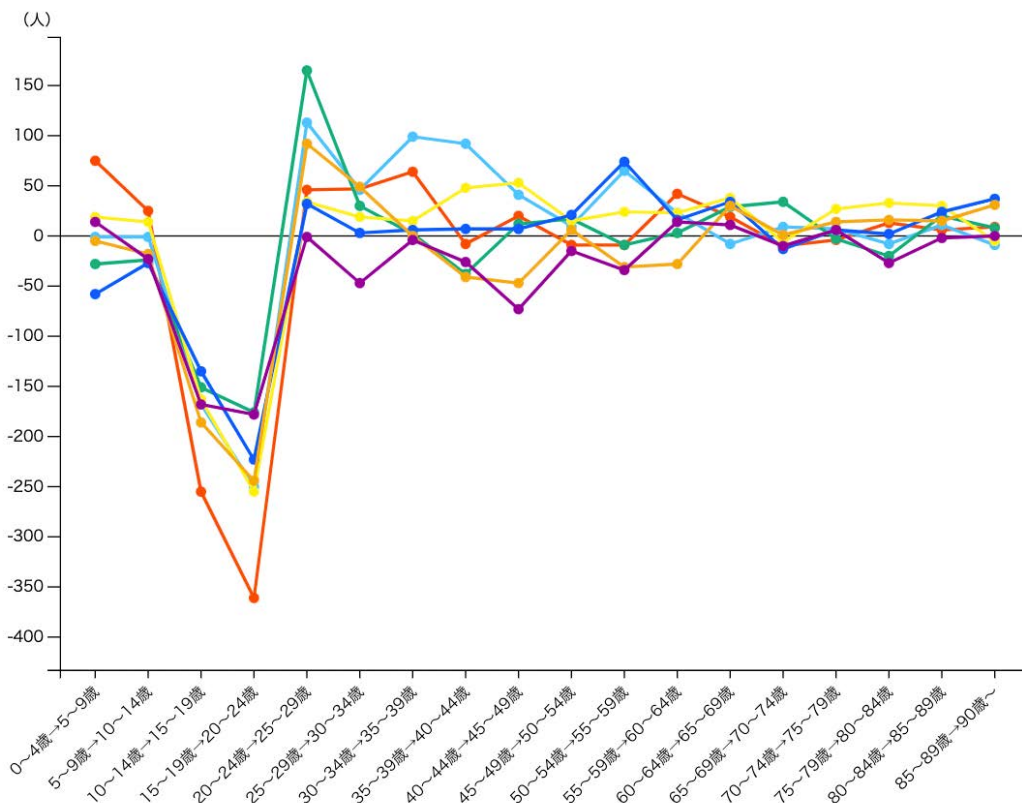
要点

- ✓近年では多くの世代で転出超過の傾向となっている
- ✓特に30代以降での転出超過の傾向が大きくなっている（10-14歳までの転出超過も見られるため、子育て世代の転出が想定される）

年齢階級別純移動数の時系列分析

鹿児島県湧水町

1980年→1985年 1985年→1990年 1990年→1995年 1995年→2000年 2000年→2005年 2005年→2010年 2010年→2015年



地域経済循環

- ・「地域経済循環率」とは、生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。
- ・雇用者所得は、主に労働者が労働の対価として得る賃金や給料等、その他所得は、財産所得、企業所得、交付税、社会保障給付、補助金等、雇用者所得以外の所得により構成
- ・その他支出は、政府支出+（地域内産業の移輸出-移輸入）により構成
- ・表中の順位は全国1,719市区町村におけるランキング

地域経済循環率
71.0%

地域経済循環図
2015年

指定地域：鹿児島県湧水町

分配

雇用者所得

その他所得

所得
(一人当たり)

154万円

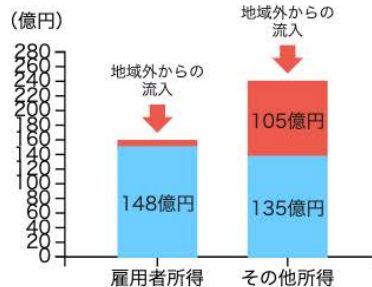
232万円

所得
(一人当たり)
順位

1,593位

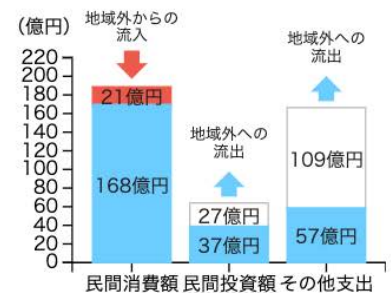
690位

分配（所得）


[詳細を見る](#)

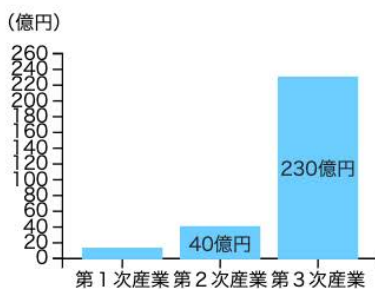
所得からの支出
399

支出


[詳細を見る](#)

支出による生産への還流
283

生産（付加価値額）


[詳細を見る](#)

生産

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
付加価値額 (一人当たり)	158万円	429万円	878万円
付加価値額 (一人当たり) 順位	1,458位	1,640位	253位

支出

	民間消費	民間投資	その他支出
支出流出率	12.3%	-41.7%	-65.7%
支出流出率 順位	519位	1,376位	801位

要点

- ✓雇用者所得、その他所得ともに域外からの流入が見られ、特にその他所得では全体の約44%を占める。水準としては、雇用者所得が全国的に低い
- ✓地域住民の消費（民間消費）を域内で吸収できている一方で、地域内産業の支出が域外に大きく流出している
- ✓第3次産業で付加価値額が高い一方、第1次・第2次産業は低い水準である

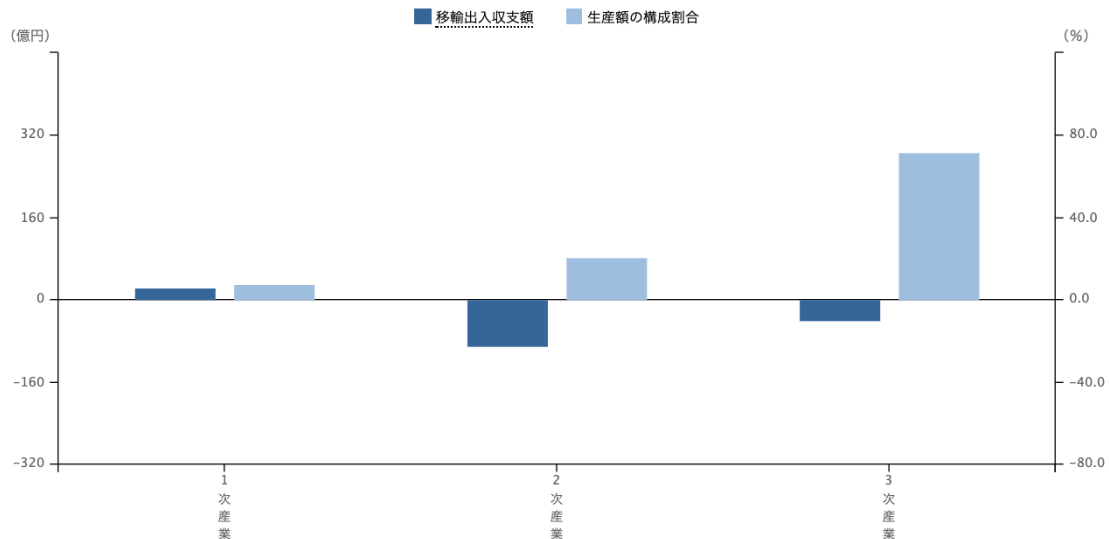
移輸出入額

移輸出入収支額（産業別）

2015年

指定地域：鹿児島県湧水町

指定産業：すべての大分類＞すべての中分類



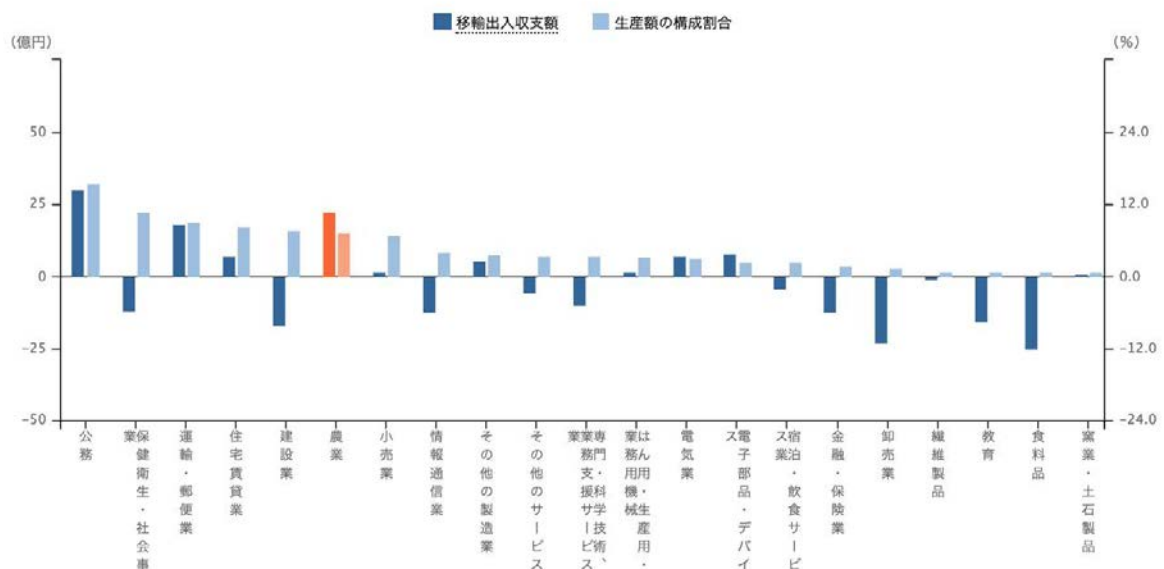
・「移輸出入収支額」とは、域外からの（移出・輸出に伴う）収入額から域外への（移入・輸入に伴う）支出額を差し引いたものである。プラスの産業は域外からお金を獲得している産業、マイナスの産業は域外にお金が出ていることを示す。

移輸出入収支額（産業別）

2015年

指定地域：鹿児島県湧水町

指定産業：第1次産業＞農業



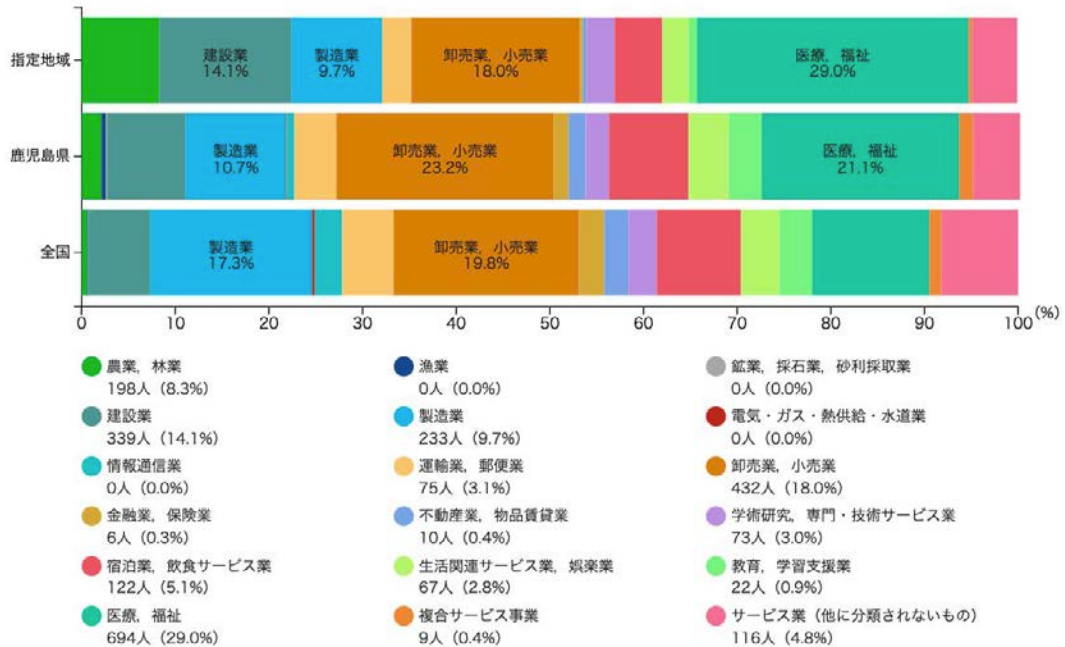
要点

- ✓産業別生産額は第1次が約8%、第2次が約20%、第3次が72%
第1次産業は域外の資本を獲得できている一方、第2次・第3次は流出が見られる
- ✓中分類では公務、運輸・郵便業、農業の生産額割合・域外からの流入が大きい

産業構造

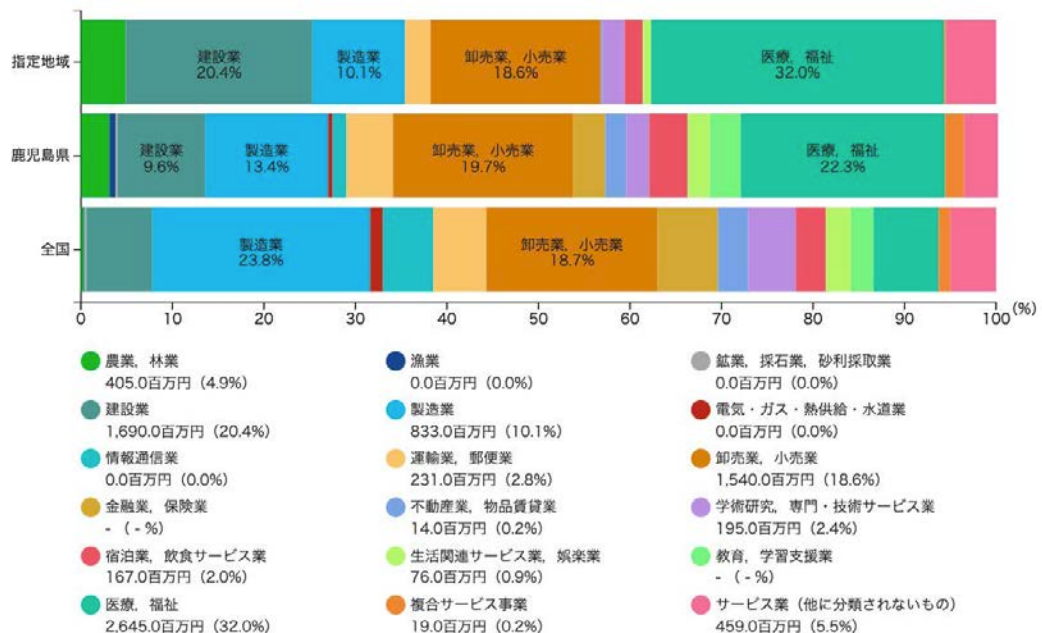
従業者数(企業単位) 2016年

指定地域：鹿児島県湧水町



付加価値額(企業単位) 2016年

指定地域：鹿児島県湧水町



✓市内従業者は医療・福祉関係（約29%）、卸売業・小売業（約18%）の割合が高い

要点 ✓付加価値額では医療・福祉関係（約32%）、建設業（約20%）の割合が高い

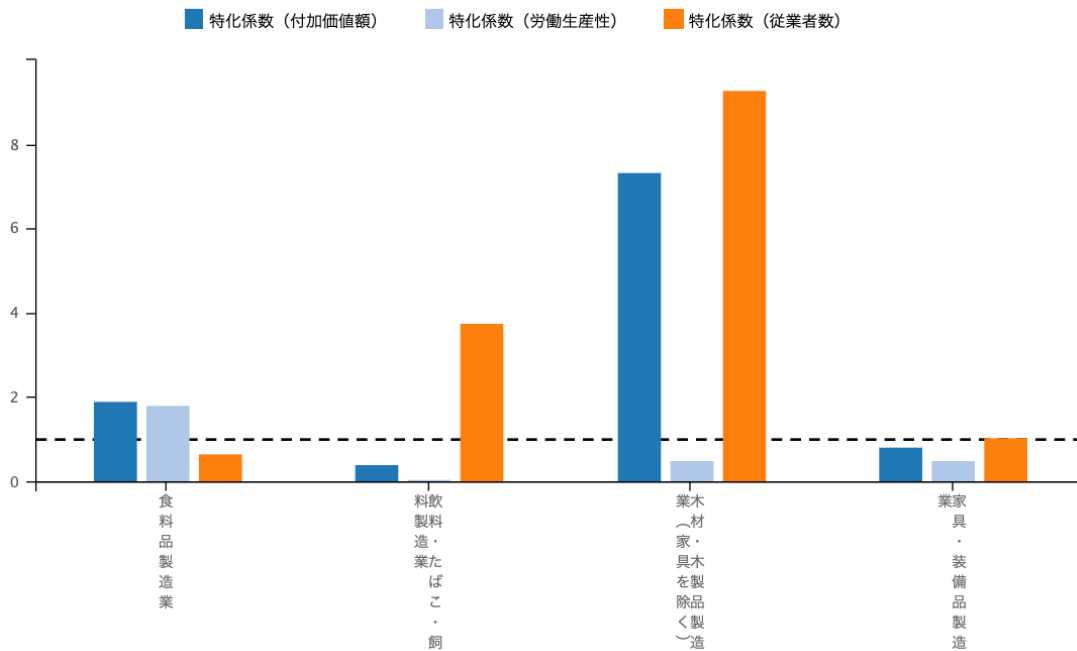
✓特に農業の割合が国内・県内でも高いのが特徴

基幹産業

産業別特化係数 2016年

指定地域：鹿児島県湧水町
指定産業：製造業

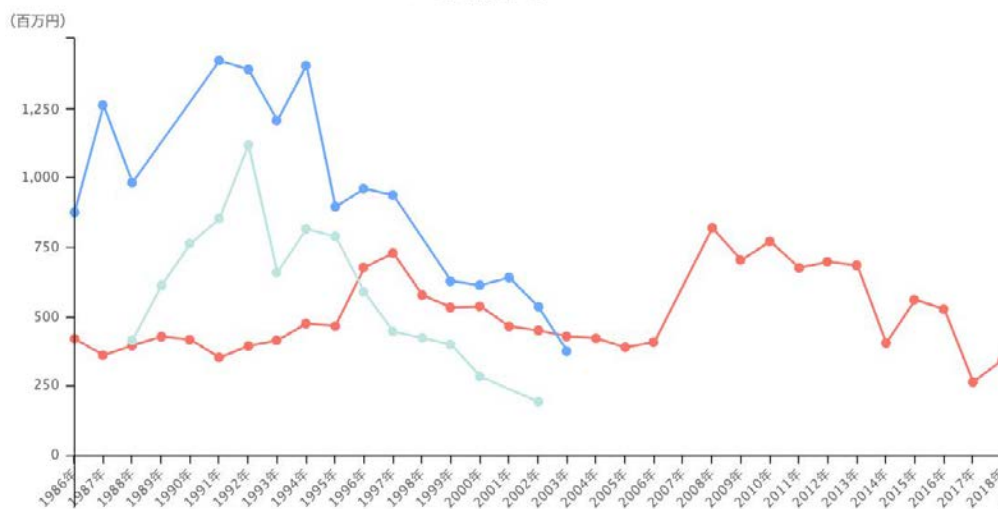
- ・特化係数は、域内のある産業の比率を全国の同産業の比率と比較したもの。1.0を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。
- ・労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。
労働生産性 = 付加価値額（企業単位）÷ 従業者数（企業単位）



付加価値額（実数）の推移

鹿児島県湧水町
製造業すべての中分類

● 木材・木製品製造業（家具を除く） ● 繊維工業 ● 金属製品製造業 ● 飲料・たばこ・飼料製造業 ● 窯業・土石製品製造業



✓ 製造業の中でも木材・木製品製造業の特化係数が著しく大きく、食料品製造業も比較的高い水準である

✓ 木材・木製品製造業の付加価値額は横ばい～やや減少の推移となっている

要点

鹿児島県の状況、姶良・伊佐地域4市町レポート 出典

【人口マップ】

①人口構成・人口増減・将来人口推計

総務省「国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」、「住民基本台帳人口移動報告年報」、「人口推計」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

厚生労働省「人口動態調査」

②人口の自然増減

厚生労働省「人口動態調査」、「人口動態保健所・市区町村別統計」、「福祉行政報告例」

総務省「国勢調査」、「就業構造基本調査」、「社会生活基本調査」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

③人口の社会増減

総務省「住民基本台帳人口移動報告」、「国勢調査」

厚生労働省「都道府県別生命表」

【地域経済循環マップ】

①地域経済循環図・生産分析・分配分析・支出分析

→環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」

（株式会社価値総合研究所（日本政策投資銀行グループ）受託作成）

②労働生産性等の動向分析

→内閣府「県民経済計算」

総務省「国勢調査」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【産業構造マップ】

①全産業の構造・企業数・事業者数・従業者数・付加価値額・労働生産性

総務省「経済センサス－基礎調査 再編加工」

総務省、経済産業省「経済センサス－活動調査 再編加工」

（限定メニュー）

株式会社帝国データバンク「企業概要データベース COSMOS2」、「企業間取引データ TRD」

②稼ぐ力分析

総務省、経済産業省「経済センサス－活動調査 再編加工」

経済産業省「工業統計調査 再編加工」

厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

林野庁「森林・林業統計要覧」

総務省「地方公務員給与実態調査」、「国勢調査」

③製造業の構造・製造業の比較・製造品出荷額等

経済産業省「工業統計調査 再編加工」

総務省、経済産業省「経済センサス－活動調査 再編加工」

総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

【まちづくりマップ】

①通勤通学人口

総務省「平成27年国勢調査」

②施設周辺人口

国土交通省「メッシュ別将来人口推計」「国土数値情報」

『地域未来構想カレッジBOOKLET』

発行：始良・伊佐地域振興局

協力：霧島市、伊佐市、始良市、湧水町

編集：鹿児島天文館総合研究所Ten-Lab

<https://www.pref.kagoshima.jp/an01/college/01.html>